

令和 6 年第 15 回

札幌市教育委員会會議録

## 令和6年第15回教育委員会会議

1 日 時 令和6年7月29日（金）13時30分～17時30分

2 場 所 STV 北2条ビル6階 A・B会議室

3 出席者

教 育 長	山 根 直 樹
委 員	阿 部 夕 子
委 員	佐 藤 淳 子
委 員	石 井 知 子
委 員	道 尻 豊 子
委 員	中 野 倫 仁
教 育 次 長	廣 川 雅 之
生涯学習部長	井 上 達 雄
学校教育部長	佐 藤 圭 一
外国語小委員会委員長	大 道 弘 孝
教科用図書選定審議会委員	丸 山 未 来
音楽小委員会委員長	川 原 明 子
教科用図書選定審議会委員	河 合 博 子
美術小委員会委員長	木 原 英 俊
教科用図書選定審議会委員	森 岡 香 子
技術・家庭小委員会委員長	福 井 浩 史
教科用図書選定審議会委員	長 谷 川 寿
教科用図書選定審議会委員	高 橋 慶 之
社会小委員会委員長	遠 山 博 雅
教科用図書選定審議会委員	佐 藤 雅 哉
教科用図書選定審議会委員	吉 田 卓 矢
児童生徒担当部長	喜 多 山 篤
総務課長	千 田 博 史
庶務係長	新 井 達 之
書 記	滝 野 沢 由 希 奈

4 傍聴者 21名

## 5 議題

協議第1号 令和7年度使用教科用図書の選定について

## 【開　会】

○山根教育長 これより、令和6年第15回教育委員会会議を開会いたします。  
本日の会議録の署名は、佐藤淳委員と中野倫仁委員にお願いいたします。

## 【議　　事】

○協議第1号 令和7年度使用教科用図書の選定について

○山根教育長 それでは、議事に入ります。協議第1号「令和7年度使用教科用図書の選定について」です。では、改めて私から、教科書採択の流れを確認しますが、先週金曜日の教育委員会会議において事務局から説明がありましたとおり、4回の教育委員会会議を開催して審議することになります。4回の教育委員会会議のうち、選定のための審議は26日と本日、及び8月5日（月）の計3回で行い、その結果を受けて8月9日（金）の4回目で採択する運びになります。26日の1回目で、中学校部会の5つの小委員会を対象に審議を行いましたので、2回目の本日は、外国語、音楽、美術、技術・家庭、社会の順に、残りの5つの小委員会を対象とします。

なお、本日行われる、音楽、美術、技術・家庭、社会の地図は、教科書の発行者がいずれも3者以下そのため、この第1段階では選定候補のしづくはいたしません。このような流れで、進めていくことによろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○山根教育長 それではまず、各種目の審議に入る前に、教科書採択の任を負っている私たちは、札幌市の教科書採択の公正・中立性をしっかりと確保しなければなりません。私から、委員の皆様に確認させていただきたいことがあります。前回の教育委員会会議終了後、本日までに「特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

（「なし」と発言する者あり）

○山根教育長 ただ今、みなさんから「影響力の行使や圧力等はなかった」との回答をいただきましたので、私たち6人による協議は、教科書採択の公正・中立性を確保しうるものであると判断いたします。

○山根教育長 それでは、審議に入ります。まず、「英語」から始めます。その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等

はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは、外国語小委員会の委員長、調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○外国語小委員会委員長 中学校部会、外国語小委員会委員長の大変でございます。

今回、調査研究の対象となったのは、「東書」「開隆堂」「三省堂」「教出」「光村」「啓林館」の6者、合計18点の教科書です。これらについて、教育委員会が定めた調査研究の基本方針に基づき、外国語小委員会において、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりました。

まず、教科の目標について確認させていただきます。学習指導要領では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指しております。外国語の目標のキーワードは「言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成すること」でございまして、これは、小・中・高の外国語科の目標に共通している表現です。このことからも、「言語活動」、つまり、「自分の考えや気持ちを伝え合う活動」が重視されております。

また、令和5年度全国・学力学習状況調査の札幌市の結果では、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」において、全国平均以上の結果となりましたが、「話すこと」において、大きな課題が残る結果となりました。

以上のことを踏まえ、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会が作成しました「採択参考資料」を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。

採択参考資料の外国語3ページから、外国語20ページまで、調査研究結果を示しております。

採択参考資料外国語16~17ページの「様式4」をご覧ください。  
「話すこと（やり取り）」の活動数及び総ページ数について説明いたします。  
第3学年において、「話すこと（やり取り）」の活動数及び総ページ数が一番多いのは、開隆堂です。また、2学年では光村、1学年では啓林館となっており、以上のことから、「話すこと（やり取り）」を量的な視点から見たときに

は、開隆堂、光村、啓林館において特長がみられました。

続きまして、「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。

答申のインデックス外国語の〔外2〕ページをご覧ください。外国語においては、4つの具体項目について調査研究いたしましたが、そのうち、1の

(1) 課題探究的な学習の取扱いについてと、1の(2)「話すこと（やり取り）」の領域における学習の取扱いについての2点において、各教科書の特長がみられましたのでご説明させていただきます。

答申のインデックス外国語の〔外3、4〕ページをご覧ください。1の(1)課題探究的な学習の取扱いについてです。はじめに、「単元内」で特長がみられた1者についてご説明させていただきます。

「東京書籍」2年66ページをご覧ください。こちらは、各単元のまとめの活動である「Unit Activity」になりますが、66ページ上段に言語活動の目的や場面、状況がより具体的に掲載されております。このページで言うと、「全ての人々にとって過ごしやすい場所にするために」という具体的な目的が記載されているので、言語活動を自分事として捉えやすく、考えや情報を整理し、アウトプットにつなげることが可能な内容となっております。

次に、「単元末」の振り返りにおいて、特長がみられた1者についてご説明させていただきます。

「開隆堂」2年45ページをご覧ください。こちらは、複数単元のまとめ活動である「Our Project」になりますが、目標に対する達成度を振り返る項目とともに、級友と比べて次の言語活動に取り入れたいと思う表現を書き留める自由記述欄が掲載されており、次の学習に向かう意欲を高めることができ内容となっております。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」1の(2)「話すこと（やり取り）」の領域における学習の取扱いについてご説明いたします。

答申のインデックス外国語の〔外5〕ページをご覧ください。まず、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする学習内容の取扱いについて、特長がみられた3者について、ご説明いたします。

「東京書籍」2年145ページをご覧ください。こちらは、「Small Talk即興で伝え合おう」のページです。146ページ以降には、各単元の学習内容に関連した、日常的な話題についての質問と表現などが巻末に掲載されております。

次に、「光村」2年136、137ページの間にあります、帯教材をご覧ください。こちらの帯教材は、授業最初のやり取りの活動として活用可能な教材「Let's Talk」で、日常的な話題が掲載されており、帯教材の下には、あいづちやレスポンスなどの表現が掲載されています。このように、「東京書籍」「光村」の2者は、日常的な話題について自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、相手からの質問に答えたりする学習内容の取扱いが巻末に掲載されており、過去に練習したトピックスも含めて、繰り返しペアで「話すこと（やり取り）」の練習をすることができる構成になっております。

次に、「開隆堂」2年20、21ページをご覧ください。

こちらは、新出表現導入の「Scenes」のページです。20ページには、単元で学習する言語材料を取り入れた日常的な話題について対話形式で掲載されており、どのような目的や場面、状況で言語材料や表現が使われているのかを視覚的にも理解しながらやり取りを聞いた上で、ページ21の「Speak & Write」において、ペアで対話練習することが可能な内容となっております。

次に、社会的な話題について聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合う学習内容の取扱いについてですが、特長がみられた4者について、ご説明いたします。

「東京書籍」3年51ページをご覧ください。第3学年Unit4 防災への取り組みについて学習する単元ですが、52、53ページで防災についての本文を読んで理解した後、下段には、その単元に関連した題材に関して、段階を踏んでペアでやり取りの練習を積み重ねる「Activity」が掲載されています。さらに、p58単元末の「Unit Activity」において、「防災のためにどんな助け合いができるかを伝え合おう」というトピックスで、既習表現や語彙、これまでの「Activity」での練習を通して、相手に伝え合うことが可能な内容となっております。

次に、「三省堂」2年45ページをご覧ください。第2学年Lesson4 環境問題について学習する単元ですが、48ページのSmall Talkにおいて、水の使い方についてペアで伝え合った後49ページの本文読解において、グラフを用いた本文から、世界の飲み水事情について情報を読み取ったりしながら、自分の考えや意見を深めることができます。

次に、「教育出版」3年91ページをご覧ください。第3学年Lesson7 レストランにおけるドギーバッグ（お持ち帰り用の袋）について学習する単元ですが、92～93ページのPart1のように、ドギーバックに対する様々な意見が掲載された本文を読解した上で、単元末の「Activities Plus4」において、ドギー

バッグの是非についてお互いの意見を伝え合い、学習したことや自分の考えをより深めることが可能な内容となっております。

次に、「啓林館」3年63ページをご覧ください。第3学年Unit5「気候変動」について学習する単元ですが、66ページのPart2のように、気候変動について統計を用いた本文を読解し、各パートに掲載されている「Enjoy Chatting」において、地球を守るために自分たちができることなどについて、既習表現や語彙を用いて伝え合うことが可能な内容となっております。

なお、調査研究項目にはございませんが、学習者用デジタル教科書についても簡単にご説明させていただきたいと思います。

デジタル教科書の主な機能は、デジタル教科書の主な機能は、「音声を聞く」「文字を拡大する」「文字などを書き込む」「書き込んだものを保存する」「ルビ機能」「動画やアニメーションによるモデル提示」といった機能でございますが、これらの機能は、どの者にも備わっている基本的な機能となっております。このことは、採択参考資料の様式2「その他」にも記載されております。

なお、各者、学習者用デジタル教科書は、現段階においてお試し版であり、見開き10ページ分程度閲覧することが可能でございます。閲覧可能なページにおいて、具体的なイメージをしていただくために3つを例について説明させていただきます。スクリーンをご覧ください。

東京書籍（2年Unit2）には、単語を検索するとその単語が使用されている教科書の文例と、掲載ページが確認できる「用例辞典」が掲載されております。また、日本や世界のことについて知識を深め、地域に関する読み物教材も備わっている「デジタルマップ」が掲載されております。こちらがデジタルマップになります。このように、学習者用デジタル教科書で、学んできた知識を確かめたり、新たに学んだことを活用したりしながら、主体的に課題解決することが可能な内容となっております。

教育出版（2年Lesson3目次）には、新出の言語材料を含んだキーセンテンスを定着するための録音機能「KS定着」が備わっております。このように、モデル音声と子ども自身が録音した音声を聞き比べることで、学んできた知識・技能を確かめながら、主体的に学びを進めることができ内容となっております。

光村（例えば2年Unit7 91ページ）には、扉のページにおいて、単元全体のストーリーの音声を聞きながらイラストを並べていく「ピクチャーカード並びかえ」機能が掲載されております。このように、音声と絵を結びつけること

で、単元の学習が始まる前に、単元の物語の見通しをもった上で、主体的に学習を進めることができます。

以上、外国語について説明させていただきました。

○山根教育長 ありがとうございました。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願ひします。

○中野委員 各者、教科書の分量、難易度、単語の数など学習に対する負荷に対しては基本的には大差はないと考えてよろしいでしょうか。

○外国語小委員会委員長 学習指導要領では、例えば語彙数は1,600～1,800語程度扱うということになっておりまし、各者ともこの範囲で取り扱っておりますので、大きな違いはないと感じております。

○中野委員 例えば、札幌に来た旅行者に対して、実際に学んだことを使う場面もあると思いますが、自分が海外に行くもしくは迎えるという日常的な会話の状況に沿った表現について各者の特徴はありますか。

○外国語小委員会委員長 今回の調査研究項目にはございませんけれども、各者を見たところ、実際に旅行の場面とは限りませんが、実際の場面に即した英語のやり取り等ができるようなつくりに工夫されているように感じました。

特に英語においては、話すことのやり取りについて各者ともキャッチボールができるような工夫の言語活動が構成されていると考えております。

○中野委員 特にそこにボリュームを置いているとかそういう差はあまり目立たなかったと考えてよろしいでしょうか。

○外国語小委員会委員長 各者とも今お話しした流れが入っておりますので、特にこの者が多い少ないということはないと感じております。

○佐藤委員 全国学力学習状況調査で、札幌の子どもたちは話すことに課題があるという結果が出ていることから、話すことに注目したいのですが、実際の授業の中で会話をさせるというのは、先ほどご紹介のあった帯活動や帯教材を用いて行われるという理解でよろしいのかということと、帯活動や帯教材は実

際の授業の中でどのように使われるのか紹介いただければと思います。

○外国語小委員会委員長 授業のやり方はそれぞれの先生の工夫があるところもございますが、今お話をございましたとおり、話すこと、特にやり取りの部分で子どもたちへの力をつけるために、例えば授業の最初の1分間で、前回までに学んだ語彙や文法項目といった言語材料を用いて会話をさせる、トピックを与えて会話をさせる、50分の授業の中で最初の1分を毎回帯という時間でやっているということは多いのかなと思っております。

○佐藤委員 授業の中で話すことということがどのように扱われているか、つまり冒頭の1分の帯というところのみなのか、それ以外の場面でも話すことのトレーニングを行っているのか、という点はどうでしょうか。

○外国語小委員会委員長 大変失礼しました。今お話ししたとおり、一般的な帯の時間で最初にやることもありますし、それ以外のところについても、聞く、話す、読む、書くという4技能をバランスよく指導しているところで、その時間だけではなく、話す活動というのは、発表も含めてやり取りの活動も取り入れているところであります。

○阿部委員 今の佐藤委員の話すことという部分について、私も話すことの領域における学習の取り扱いというところに注目をしていきたいと思っております。

調査研究の具体的な内容のところでは、事実や自分の考え、気持ちを整理するという記載があって、日本語でも整理して相手に伝えることは難しいと思いますが、それを英語で伝えることが求められています。そういう意味で、小学校からの連携、小学校から中学校に入ったときに、そこが分かりやすく伝えているのは、私としては非常に重要な部分になるのかなと思いますが、特に1学年でそのあたりを丁寧に扱っている教科書があれば教えていただきたい。

○外国語小委員会委員長 今お話のあったとおり、小学校からの接続というのは各者とも力を入れているところでございます。小学校では、聞く、話すが中心となり、それが中学校に入った段階で読む、書くという流れが出てきているところです。そういう意味で、小学校で学ぶべきものについては各者ともきちんと位置付けられて大きな問題は各者ともないのかなと思います。

ただ「東書」については、小学校で学習した単語や英語表現に「小」というマークが記載されているので、そういう点では工夫があるのかなと感じております。

○石井委員 1点質問させていただきます。先ほどもご説明がありましたが、英語科の教科の目標の中に、日常的な話題以外にも、社会的な話題について外国語で簡単なやり取りをすることが書かれていますが、こういった活動は現在も学校で行われているのでしょうか。

○外国語小委員会委員長 社会的な活動についての扱いですが、実際に英語科の授業で行われています。一般的に英語の言語活動について、自分の周りの身近なところから少しずつ離れた大きなところへ、となりますので、比較的2、3年生になってから社会的な内容を取り扱っての言語活動を行うことが多いと思います。

○石井委員 ありがとうございます。日常的な話題とまた違って、社会的な話題について英語で話し合って一歩進んでいると思いますが、そういった点で現在課題などがありましたら教えてください。

○外国語小委員会委員長 社会的な内容というのは、今お話をあった通り内容も難しくなりますので、もちろんそれに対する考え方を持つような指導も必要です。話ができるような言語材料、語彙とか文法事項を学年が進むにしたがつて、しっかりと定着させていくのが一つ大切なことかなと思います。

○石井委員 ありがとうございます。

○道尻委員 1点質問させてください。先ほどデジタル画像を紹介していましたが、教科書の印刷も含めてわかりやすく体験的な理解を得るという意味で画像に着目したいと思っております。今回の教科書の中で画像的な資料、教材として優れている特徴的な部分や話題になっているようなものがあれば教えていただきたいです。

○外国語小委員会委員長 先ほどもお話しましたけれども、今回デジタル教科書については調査研究項目には該当しませんが、小委員会の中では動画の扱い

についても話題が出ておりました。各者とも2次元コードを教科書に掲載しておりまして、そこを読み取ることで動画を見られるという工夫がありました。特にこの者がということではなく、各者ともその部分について、力を入れて作られたかなと感じingおりました。以上でございます。

○道尻委員 ありがとうございます。教科書の絵も大変カラフルで見やすくなつていて、興味関心を引くというところも含めて工夫をされていると思うんですけど、こちらについても特段どの者が優れているという特徴は、話し合われていないと理解でよろしいでしょうか。

○外国語小委員会委員長 各者とも、今お話をいただきましたとおりイラストや写真を豊富に入れて、音声や文字だけでなく、視覚的にもそれを助けるような作りになっておりますので、各者大きな差はないのかなと感じております。

○道尻委員 ありがとうございます。

○山根教育長 他はいかがでしょうか。

○山根教育長 それでは、私から、小委員会委員長にお聞きします。調査研究の観点A「北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究」及び調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」において、特徴が顕著であったのはどの教科書ですか。その理由と併せて、お聞かせください。

○外国語小委員会委員長 特長が顕著な教科用図書は、「東書」「開隆堂」の2者でございます。

理由といたしましては、「東書」は、言語活動の目的や場面、状況がより具体的に掲載されており、言語活動を自分事として捉えやすいということ、また、巻末に掲載されている「Small Talk即興で伝え合おう」のページでは、日常的な話題について、過去に練習したトピックスも含めて、「話すこと（やり取り）」の練習を繰り返しペアで行うことができる内容になっていることが挙げられます。

「開隆堂」は、複数単元のまとめの活動において、次回の言語活動に取り入れたいと思う表現を書き留める自由記述欄が掲載されており、次の学習に向かう意欲を高めることができる内容になっていること、また、新出表現導入の

「Scenes」のページでは、言語材料を取り入れた日常的な話題について対話形式で掲載されており、どのような目的や場面、状況で言語材料や表現が使われているのかを視覚的にも理解しながらやり取りを聞いた上で、ペアで対話練習したり、「Small Talk」において、自分の考えを伝え合ったりすることが可能な内容になっていることが挙げられます。

2者とも、札幌市で大切にしている課題探究的な学習や、札幌市の課題である「話すこと（やり取り）」の学習の充実に向けた内容が見られます。以上の点から2者を挙げさせていただきます。

○山根教育長 ありがとうございます。ただ今の意見によりますと、特長が顕著であった教科書は、「東書」と「開隆堂」とのことでした。このことも含めて、皆さんからご質問やご意見がありましたらお願ひします。

○阿部委員 委員長のほうから「東書」と「開隆堂」というご意見をいただきまして、私も同じように「東書」と「開隆堂」と思っております。委員長からほとんど選定の理由をお話いただきまして、私もほぼ同じ意見を持っております。先ほど質問させていただきましたように、特に東書は小学校の「小」というマークが所々にあり、巻末にも小学校の学習、中学1年生では、2年生ではというように、特に丁寧な説明を記載していただいております。小学校の連携という意味では特徴的になっているかなと思いましたので、そういう点も加えさせていただければと思います。

○佐藤委員 私も同じ意見ですので、先にお話させていただきます。「東書」と「開隆堂」が良いと思います。各者本当に工夫されていて、「光村」の「Let's talk」も、必ずネイティブの人と話していると、こういうことを沢山聞かれて自分用に用意しておくということを大学生にやらせているのですが、それはいわば「東書」でいうと「small talk」、「開隆堂」でいうと「scenes対話」でやれると思いますので、やはり「東書」、「開隆堂」の2つが良いのではと思います。「東書」、「開隆堂」の「Unit Activity」、「Our Project」というところで、さらに日常対話に加えて、結構時間を取ると思うのですが、いわば課題探究的な自分たちの企画というものを作らせるという意味では非常に高度な学習になるだろうということが期待されるということです。「東書」で触れられなかったのですが、「real life English」というリスニング部分が非常に優れていると感じたところです。もちろん各者にこういっ

たものはあるわけですが、こういった形で頻繁に実際の外国旅行などで役に立ちそうなページが散りばめられている点が特徴的だと思っています。

○石井委員 私も「東書」と「開隆堂」が良いと考えております。課題探究という点でも話すところでも2者がいいかなと思っておりまして、課題探究というところでは、2者は言語活動を自分のこととして捉えやすい、かつ子どもたちが目的意識をもって学びを進めることができかと思つております。話すことのやり取りでも、日常的な話題について即興で伝えあう練習が非常に充実していて、繰り返し話すことによって子どもたちの話す力が定着するかなと思いました。また、先ほど質問させていただきましたが、「東書」は3年生の社会的な話題についてのページが、非常に充実していてとても好感を覚えました。

○中野委員 「東書」と「開隆堂」と思つています。各委員のお話と被るのであるが、題材として、昔中学校に入る前にやつたようなことを英語でどう言うか、という題材がありました。「東書」では「ごんぎつね」を英語で言つてゐることもあるし、「開隆堂」では絵本のソリのところを読んだと思いますが、そこを英語ではどう言うということもありまして、昔やつたところを、英語ではこう言うんだなというところで、英文に対する興味が沸くという仕掛けもあり、この2者を選んでいいかと思います。

○道尻委員 札幌市として目標とすべき点、そこに特徴的であったという「東書」と「開隆堂」の2者を選出することで私も異論ありません。以上です。

○山根教育長 ありがとうございます。皆さんの意見、および小委員会委員長の意見を踏まえますと、「東書」と「開隆堂」の2者を選定候補として挙げることになると思いますが、よろしいでしょうか。それでは、英語については「東書」と「開隆堂」の2者の教科書を選定候補として、8月5日に引き続き審議を行い、1者を決定いたします。小委員会委員長、ありがとうございます。

○山根教育長 それでは、次に「音楽一般」と「器楽」について、審議を行います。その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは、音楽小委員会の委員長、音楽一般の調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○音楽小委員会委員長 中学校部会、音楽小委員会委員長の川原です。

音楽一般についてご説明いたします。今回、調査研究の対象となったのは、「教出」「教芸」の2者、合計6点の教科書です。音楽小委員会において、教育委員会が定めた「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査研究の基本方針」に基づき、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりましたので報告いたします。

まず、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会が作成しました採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。

インデックス〔採択参考資料 音楽〕の〔音楽一般1〕ページをご覧ください。

音楽科では、学習指導要領において、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を（1）から（3）のとおり育成することを目指す」ことが目標とされております。

次に、〔音楽一般2〕ページの様式2から〔音楽一般8〕ページの様式5までについてです。〔音楽一般8〕ページの様式5をご覧ください。様式4の調査項目③〔北海道とかかわりのある内容を取り上げている箇所数の具体的な内容〕については、それぞれの発行者に特長がみられました。

「教出」は、6箇所の掲載があり、中でも札幌の文化的環境である札幌コンサートホールKitaraのパイプオルガンの写真や札幌時計台の写真が掲載されるなど、札幌の情景を思い浮かべたり、関心を高めたりしながら学習することが可能な内容となっております。

「教芸」は、アイヌ古式舞踊など、4箇所の掲載がありました。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。インデックス音楽〔音2〕ページをご覧ください。

音楽一般では、調査研究項目として、計5項目について調査研究を実施いたしましたが、そのうち、1の（1）「表現領域における課題探究的な学習の取扱い」、1の（2）「鑑賞領域における課題探究的な学習の取扱い」、2の（2）「国際性を育む学習活動の取扱い」については、各者の特長がみられました。

まず、1の（1）「表現領域における課題探究的な学習の取扱い」について説明いたします。音楽科の表現領域における課題探究的な学習は、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えることが大変重要となります。このような過程を大切にし、どのように表現したいかという思いや意図をもち、音楽表現を高めていく学習活動が可能な内容となっているかという観点で調査研究を行いました。

答申〔音3〕ページをご覧ください。

教科書は、「教出」〔2・3下〕19ページ、「教芸」〔2・3上〕16ページをご覧ください。教出から、ご説明いたします。すすんで学び合うための活動例として「Active！」の印がつけられており、3年間で5つの教材に位置付けられています。19ページでは、フレーズと形式という要素を手掛けかりにしながら、「花」と「荒城の月」を比較することで、音楽の特徴を見いだし、どのように表現するか思いや意図をもって表現することが可能な内容となっております。

教芸（2・3上）16ページ「学びのコンパス」では、曲の特徴を捉えるために必要な音楽を形づくっている要素が「注目するポイント」として示されています。音楽の特徴やその特徴から気付いたことを明らかにすることができ、その内容をよりどころとしながら思いや意図をもって表現を追求することが可能な内容となっております。この「学びのコンパス」は、3年間で7つの教材に位置付けられています。中でも、14ページから掲載されている「翼をください」では、題名の右隣に掲載されている考えたいポイントで課題意識をもち、16ページのヒントを参考にしながら音楽の特徴を見いだし、17ページの「My Voice」の吹き出しの内容を手掛けかりにして歌い試したりすることで、音楽表現を高めていくことが可能な内容となっております。

答申〔音4〕ページにお戻りください。

また、「教出」〔1年〕49ページ、「教芸」〔1年〕49ページをご覧ください。

1の（2）「鑑賞領域における課題探究的な学習の取扱い」についてご説明いたします。鑑賞では、音楽のよさや美しさを味わう際に、対象となる音楽が自分にとってどのような価値があるかということを、根拠をもって批評することが求められています。そのため、「表現領域における課題探究的な学習の取扱い」についてでもお話したように、聴き取ったことと感じ取ったこととを関わらせることができ、根拠をもって音楽のよさや美しさを味わうことが可能な内容となっているかという観点で調査研究を行いました。

教出の「魔王」では、「比べてみよう」のアイコンにより、ライヒャルト作曲の「魔王」と比較することで、シーベルトが作曲した「魔王」の形式との

違いや歌曲として音楽表現の違いを理解することが可能な内容となっております。教芸の「魔王」では、「学びのコンパス」を活用し、様々な場面による伴奏の違いを楽譜で比較したり、吹き出しの内容を手掛かりに旋律の変化を捉えたりすることで、登場人物の心情や情景と音楽の構造との関わりを見いだすことが可能な内容となっております。

答申〔音6〕をご覧ください。

また、「教出」(1年) 57ページ、「教芸」(2・3上) 58ページをご覧ください。2の(2)「国際性を育む学習の取扱い」について説明いたします。

この項目では、日本の伝統音楽や諸外国の音楽文化に触れ、音楽の多様性を理解することが可能な内容となっているかという観点で調査研究をおこないました。「教出」の全学年に掲載されている「Let's Try」では、(1年) 57ページのように我が国の伝統音楽やアジアの民族音楽を多く取り扱っており、歌ったりリズムを打ったりする活動を通して、それぞれの音楽の特徴や多様性を理解することが可能な内容となっております。「教芸」(2・3上) 58ページ「長唄『勧進帳』から」などの我が国の伝統音楽に関するページでは、「間」の捉え方や抑揚などが絵譜で示されるとともに、「演奏者からのアドバイス」を生かして声をまねてうたう活動をとおして、それぞれの音楽の独特なうたい方や、多様な表現が用いられていることを知り、我が国の伝統音楽の多様さについて理解を深めることができます。また、「教芸」(2・3下) 52ページ「伝統音楽の魅力を見付けよう」では、能、歌舞伎、文楽について、同じ表題を扱う演目で比較鑑賞することで、音色と旋律の特徴についてそれぞれのよさや味わいを感じ取り、我が国の伝統音楽の多様性について理解を深めることができます。

以上、音楽一般について説明させていただきました。

○山根教育長 それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○石井委員 質問させていただきます。鑑賞領域における学習の取り扱いになると思いますが、2者を比較したときに、どちらかというと「教芸」のほうが魔王だったりビバルディの部分で楽譜をばーんと出している感じがして、「教出」は魔王であれば、ゲーテの日本語訳の詩を載せて、後に絵画を載せてから楽譜であったり、ビバルディも合奏の写真を載せてから楽譜であったり、少し工夫がされていると思いました。鑑賞における紙面の載せ方について、小委

員会のほうで何か話し合われたのでしょうか。

○音楽小委員会委員長 資料の扱いについては、小委員会の中で話題にはなっていましたが、それぞれの特徴がありまして、両者とも聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについては示されていることが多く、「教出」はどちらかというと聴き取ったことや感じ取ったことをまとめておきましょう、というメモ欄がしっかりと設けられているなという特徴がありました。「教芸」についてはキャラクターのコメントのような、何人か人が出ていて、そこに注目するべき何かがわかるように構成されているという特徴については話し合われました。それ以外の絵画のような示し方ですか、写真のほうについてはあまり大きな話題にはなっておりませんでした。

○中野委員 鑑賞の領域で、両者ともオペラのアイーダが出ており、有名なオペラの代表作だと思いますが、これは実際に授業でどう扱うのでしょうか。

○音楽小委員会委員長 調査項目の内容には入っていないかったのですが、総合芸術としての扱い方もありますし、中に含まれているアリアの部分だけを取り出して、歌唱表現について学習するという取り扱いもあります。

○中野委員 例として全部出すわけにはいかないと思いますが、具体例をポイントだけ教えてください。

○音楽小委員会委員長 今回の教科書で特にというようなことはあまり示されていないのですが、総合芸術としての音楽、オペラの扱いということか、もしくはそれぞれの登場人物の主たる楽曲であるアリアの部分を細かな歌唱表現として取り上げて、聴き取ったことや感じ取ったことを関わらせることを学習したり、「教芸」であればオペラと歌舞伎を比較したりといった学習で取り上げられています。

○中野委員 学習指導要領でオペラを扱うことになっているわけではない。

○音楽小委員会委員長 そうです。

○道尻委員 教科書の中にはコンピューターと音楽について取り上げているも

のがありますが、授業の中でどのくらい触れていくのが現状なのか、その課題、意味合い、重要性についての議論があれば教えていただけますか。

○音楽小委員会委員長 今回の調査項目の中で特段取り上げたことではないのですが、生活や社会の中の音や音楽といったところでの内容になろうかと思います。学んでいることや、学んだことの意味や価値などを自覚できるように指導するということで、今生活に非常に密着しているコンピューターを用いて、例えば作られたものを鑑賞することもありますし、創作等の学習活動の中でコンピューターを活用することもございます。特に最近札幌市の子どもたちが使っているchromebookの中にも活用できるアプリ等がございますので、それを用いた創作活動も学習の中で展開しているというふうに聞いています。

○山根教育長 ありがとうございます。他、よろしいでしょうか。

○山根教育長 ありがとうございます。それでは、「音楽一般」は、対象となる教科書が「教出」「教芸」の2者ですので、2者とも選定の候補とし、8月5日（月）に引き続き審議を行い、それぞれ1者を決定するということでおろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○山根教育長 それでは、音楽小委員会の委員長、器楽合奏の調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○音楽小委員会委員長 続いて、器楽合奏についてご説明いたします。

今回、調査研究の対象となったのは、「教出」「教芸」の2者、計2点の教科書です。まず、調査研究の観点Aである、採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。教科の目標等については、音楽一般で説明した通りとなっております。

はじめに〔器楽合奏2〕の様式2から〔器楽合奏6〕ページの様式5までについてです。〔器楽合奏5〕ページをご覧ください。この中では、様式4の③「和楽器を扱う箇所数」の具体的な内容について、各者の特徴が見られました。札幌市においては多くの中学校で、箏を用いた授業を行っておりますので、和楽器の中でも特に箏についてご説明いたします。「教出」では、64曲のうち箏の独奏曲が4曲、二重奏曲が3曲の計7曲、「教芸」では、51曲のうち箏の独

奏曲が6曲掲載されております。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。答申〔音9〕ページをご覧ください。器楽合奏においては、調査研究項目として、計5項目について調査研究を実施いたしましたが、1の（1）「基礎的な技能に関する取扱い」、1の（2）「教具や演奏形態に関する取扱い」、2（2）「国際性を育む学習の取扱い」について、各教科書の特長が見られましたのでご説明させていただきます。

答申〔音12〕ページをご覧ください。まず、1の（1）「基礎的な技能に関する取扱い」についてご説明いたします。また、「教出」41・42ページをご覧ください。（間）この項目では、写真や説明文などが効果的に掲載されることで、基礎的な技能の習得に向けて学ぶ意欲を高めることが可能な内容となっているかという観点で調査研究をおこないました。箏のページでは、「教出」41ページの真ん中の写真のように爪のはめ方や、42ページの左下の写真のように親指による基本的な奏法などが大きな写真で掲載されており、生徒自身が模倣しながら基礎的な技能を身に付けることが可能となっております。

「教芸」38ページをご覧ください。縦書きの楽譜を用いた平易な練習曲とともに、演奏のポイントが細かく示されており、そのポイントを押さえながら取り組むことで基礎的な技能を身に付けることが可能となっております。

答申〔音9〕ページにお戻りください。1の（2）「教具や演奏形態に関する取扱い」についてご説明いたします。様々な演奏形態を選択することで、学ぶ意欲を高めることが可能かという観点で調査研究を行いました。「教出」64ページをご覧ください。ここからスタートする「Let's Play」、さらに75ページからスタートする「Let's Try」では、馴染みのある楽曲がリコーダーアンサンブルや、和楽器による独奏や合奏など、多様な演奏形態の楽曲が豊富に掲載されており、生徒の実態や学習のねらいに合わせて演奏形態を選択し、学ぶ意欲を高めることが可能な内容となっております。

「教芸」80ページをご覧ください。「千の風になって」では、「学びのコンパス」の②に掲載されている楽器の例のように、パートの役割や音色の特徴を生かしながら、自由に楽器を選択できるように編成されており、楽器の組合せにより響きの違いを探究することが可能となっております。また、70ページ以降のアンサンブルや、96ページ以降の「楽器でMelody」では、様々な演奏形態の楽曲が豊富に掲載されており、学ぶ意欲を高めることが可能な内容となっております。

2の（2）「国際性を育む学習の取扱い」についてです。楽器等を演奏した

り、諸外国の音楽や様々なジャンルの音楽を知ることで多様な音楽文化について理解を深めることができがどうかについて調査しました。

「教出」56 ページをご覧ください。「弾く楽器の仲間たち」では、楽器の形状を手掛かりにしながら、生活様式や流通、貿易等について考えたりすることで、多様な音楽文化について理解を深めることができます。

次に「教芸」68 ページをご覧ください。「バンドの世界をのぞいてみよう」では、中学生になじみのある楽曲の楽譜（スコア）が掲載されており、日常生活に浸透している音楽について、理解を深めることができます。また、「教芸」70 ページの「伝統の枠を越えて活躍する和楽器」では、尺八とマリンバのように、和楽器が伝統的な音楽だけではなく、様々なジャンルの音楽に取り組んでいることが示されており、多様な音楽文化について、理解を深めることができます。以上、器楽合奏について御報告申し上げます。

○山根教育長 それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○阿部委員 「教芸」には「学びのコンパス」というのがあったと思いますが、「教出」ではそれが「Let's Play」や「Let's Try」になるのでしょうか。それとも別の代替になっているのであるのでしょうか。

○音楽小委員会委員長 今回の調査では特段見出すことはできませんでした。

○山根教育長 他、よろしいでしょうか。

○山根教育長 それでは、「器楽合奏」は、対象となる教科書が「教出」「教芸」の2者ですので、2者とも選定の候補とし、8月5日（月）に引き続き審議を行い、それぞれ1者を決定するということでよろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○山根教育長 では、そのようにいたします。音楽小委員会の委員長、ありがとうございました。

○山根教育長 続きまして、「美術」について、審議を行います。

その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは、美術小委員会の委員長、調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○美術小委員会委員長 中学校部会、美術小委員会委員長の木原です。

今回調査研究の対象となったのは、「開隆堂」「光村」「日文」3者、計8点の教科書です。美術小委員会において、教育委員会が定めた「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査研究の基本方針」に基づき、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりましたのでご報告いたします。

まず、調査研究の観点Aである、採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。インデックス〔美術・採択参考資料〕の「美術1」ページをご覧ください。下段の【参考】の欄にありますように、美術科の目標は、「感性や想像力を働かせ、造形的な視点を豊かにもち、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」が一層重視されております。

「美術9」ページをご覧ください。この「様式4」の表中①にあります「鑑賞」の「ページ数及び全体の占める割合」について、特徴が見られましたのでご説明いたします。各者、表中にあるとおり、「光村」については、1年：18ページ、2・3年：48ページと、他者に比べても鑑賞のページ数が多くなっております。

これは、例として光村2・3年12～15ページをお開きいただきたいのですが、このような「体感ミュージアム」という鑑賞のページが最大8ページ設定されていたり、2・3年の27ページから16ページに渡る「日本の絵画」の特集ページが設定されている影響であることが考えられます。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」についてご説明いたします。インデックス〔美術〕の「美2」ページをご覧ください。美術においては、ここにあります5つの調査研究項目について調査研究を実施いたしましたが、そのうち、特に特長のみられた1-(1)、1-(2)、2-(2)の3つの項目についてご説明いたします。

それでは初めに1の(1)「課題探究的な学習活動の取扱い」についてご説

明いたします。インデックス〔美術〕の「美3」ページをご覧ください。

この項目においては、「表現及び鑑賞の活動において、感性や想像力を働かせ、他者と関わりながら自己対話を繰り返し、見通しをもって主体的に取り組むことが可能な内容及び構成になっているか」という観点で調査いたしました。この調査研究結果から、特に顕著な特徴があった2者についてご説明いたします。

まず「開隆堂」です。2・3年10ページ「私が見つめた風景」をご覧ください。光や色彩の表し方に特徴のあるモネの作品が複数掲載され、授業の導入段階として、「鑑賞」の小見出しとキャラクターの吹き出しの内容により、空間や光の表し方などに注目しながらじっくりと鑑賞することができます。めくつて次のページでは、構図の取り方や景色の切り取り方、右のページでは、奥行きを出すための色彩の工夫などが詳しく示されており、感性や想像力を働かせて、主体的に学習に取り組むことが可能な内容となっております。

「開隆堂」は全ての題材において、この「知識・技能」「発想・構想」「鑑賞」の小見出しどともに、活動の具体が示されており、題材の目標と活動のつながりを意識しながら主体的に取り組むことが可能な構成となっております。

次に「光村」です。1年52ページ「暮らしをいろどる文様」をご覧ください。この題材では、世界各地の様々な文様が多数掲載され、授業の導入段階として、「POINT」に示されている鑑賞の着眼点を参考にして、AからDのグループに、それぞれどのような共通点があるかを話し合う活動が設定され、文様への興味・関心を高めたり理解を深めたりした上で、デザインの段階に入ることができます。

次のページの「みんなの工夫」のコーナーでは、同じ中学生がどのようなことを考えながら発想・構想し、試行錯誤しながら制作を進めていったのかが紹介されており、他者の様々なアイデアを参考にしながら、主体的に学習に取り組むことが可能な内容となっております。

「光村」は全ての題材において、「鑑賞」から「表現（発想・構想）」という学習の流れになっており、「みんなの工夫」が随所に設定されているのが特長です。

また、55ページの下にあるように、「他教科とのつながり」のコーナーも随所に設定しております。

2・3年54ページ「今の自分、これから自分」においても、作者の思いに迫ることができる図版や説明があるとともに、「みんなの工夫」に4名の生徒の参考例が掲載されており、掲載資料が充実しております。

次に2の（2）「国際性を育む学習の取扱い」についてご説明いたします。インデックス〔美術〕の「美6」ページをご覧ください。

この項目においては、「日本や諸外国の美術や美術文化の相違点や共通点に気付き、美術を通した国際理解や美術文化の継承と創造について考えることが可能な内容となっているか」という観点で調査いたしました。この調査研究結果から、各者において、特に顕著な特徴についてご説明いたします。

まず「開隆堂」です。2・3年56ページ「仏像が表す世界」をご覧ください。

この鑑賞の題材は、立体曼荼羅や様々な仏像が4ページに渡り掲載されており、それぞれの仏像をじっくりと鑑賞しながら造形的な特徴やその意味について理解し、仏像彫刻のよさや美しさを味わい、日本の美術文化について興味・関心を高めることができます。

次に「光村」については、1年36~43ページ「風神・雷神」をご覧ください。

この鑑賞のページは、見開きで風神・雷神の彫刻、さらに開くと、風神・雷神の屏風絵がそれぞれ大きく掲載され、じっくり鑑賞できるとともに、次のページの「体感ミュージアム」では、風神・雷神が設置場所から考察したり、作者の異なる2つの屏風絵を比較鑑賞することができ、様々な視点から、日本の美術文化への理解を深めることができます。

「光村」は、2・3年60ページからの「ゲルニカ」の鑑賞についても、（開く）大きな図版や、制作過程や作家紹介などの資料が充実しており（めくる）、スペインの内戦という時代背景も理解することで、美術を通した国際理解や美術が社会に果たす役割について学ぶことが可能な内容となっております。

次に「日文」です。2・3年下24ページ「あの日を忘れない」をご覧ください。

この鑑賞の題材では、東日本大震災をきっかけに描かれた「誕生」と、戦争をきっかけに描かれた「ゲルニカ」の2つの作品が掲載されており、それぞれの絵に描かれている内容に気付き、作者が社会に訴えたいこと感じとりながら、美術を通した国際理解や、美術の社会に果たす役割について考えることが可能な内容となっております。

最後に、1の（2）「資料の取扱い」についてです。インデックス〔美術〕の「美4」ページをご覧ください。

この項目では、「多様な図版や資料ページなどが掲載され、美術に対する興味・関心を引き出すとともに、造形的な見方・考え方を働かせながら、表現及び鑑賞の学習に活用することが可能な内容となっているか」について調査しました。

「開隆堂」は、凹凸感のある「表紙」、「光村」は、別冊の資料や和紙風の紙で構成された2・3年の「日本の美術」特集ページが大きな特徴となっております。これらについては、肯定的な意見が市民意見にも多数挙げられていました。ご説明は以上となります。その他の特徴については、お手元の資料をご覧ください。

○山根教育長 ありがとうございました。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○阿部委員 2点質問させていただきたいと思います。資料の取り扱いのところですけれども、「光村」だけ資料が別冊の形であると思いますが、実際にどのような活用の仕方をされるのか、あと、2、3年生のところに和紙のコーナーがあるのですが、これは「光村」のみなのか、教えてください。

○美術小委員会委員長 1点目、別冊の資料についてですが、小委員会でも話題になっておりまして、美術科の場合は教科書のほかに生徒に資料集を用意することが多いのですが、別冊の資料があることによってその扱い方が今後変わってくる可能性があるという意見は出ていました。2点目、和紙風の、というところですが、光村のページ以外は紙の質を和紙風にして、というところは今回確認できませんでした。

○阿部委員 ありがとうございます。

○山根教育長 他はいかがでしょうか。

○石井委員 「光村」の和紙の特殊ページに関して質問させていただきます。拝見すると、実際の作品が原寸大で載っていますが、これも「光村」の特徴として捉えてよろしいでしょうか。

○美術小委員会委員長 原寸大は3者ともそれぞれありますので、原寸大が「光村」のみの特徴というわけではないと思います。

○佐藤委員 原寸大の「開隆堂」と「日文」のページを教えていただきたいのですが。

○美術小委員会委員長 例えは「開隆堂」は1年生53ページをご覧ください。「日文」は1年生の56、57ページに縄文土器の実物大の掲載があります。他にもたくさんございますので、今、例として挙げた他にも、めくっていくと結構いろんなところに出てくるかと思います。

○中野委員 各者で日本の浮世絵に触れているのですが、3者で浮世絵に対して扱いが違う、特徴があるなどはございますでしょうか。

○美術小委員会委員長 浮世絵は3者とも取り扱いがありますが、調査の中で大きな差は感じませんでした。

○中野委員 「光村」は和紙のところで浮世絵を取り扱っていて、「日文」は大きな見開きを使っていてそこが違うと思っていますが、「開隆堂」はどうでしょうか。

○美術小委員会委員長 「開隆堂」は1年生の32、33ページに浮世絵の掲載がございます。「日文」でしたら2、3年（上）の24、25ページに掲載がございます。

○山根教育長 他、よろしいでしょうか。

○山根教育長 それでは、「美術」は、対象となる教科書が「開隆堂」「光村」「日文」の3者ですので、3者とも選定の候補とし、8月5日（月）に引き続き審議を行い、1者を決定するということでよろしいでしょうか。  
(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 では、そのようにいたします。美術小委員会の委員長、ありがとうございました。

○山根教育長 ここで10分間の休憩といたします。

(休憩)

○山根教育長 それでは、会議を再開いたします。

○山根教育長 次に、「技術・家庭」について、審議を行います。その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありましたか。

(「なし」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは、技術・家庭小委員会の委員長、技術分野の調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○技術・家庭小委員会委員長 中学校部会、技術・家庭小委員会委員長の福井です。技術・家庭については、技術分野と家庭分野の2種目がございます。

今回、調査研究の対象となったのは、2種目とも、「東京書籍」「教育図書」「開隆堂」3者、計6点の教科書です。技術・家庭小委員会において、教育委員会が定めた「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査研究の基本方針」に基づき、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりましたので報告いたします。

まず、技術分野から御説明いたします。

はじめに、「調査研究の観点A」、北海道教育委員会が作成した採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果について説明いたします。「技術・家庭（技術分野）採択参考資料」の技術7ページを御覧ください。

「北海道とかかわりのある内容を取り上げている資料等の箇所数」の具体的な内容についてです。

「東京書籍」は、動物を育てる技術として八雲町の酪農に関する「省電力化のための自動化の技術」など、写真で2箇所、地図で3箇所、文字で2箇所、計7箇所です。

「教育図書」は、地域の伝統野菜として「札幌大球キャベツ」など、写真で2箇所、地図で1箇所、文字で7箇所、計10箇所です。

「開隆堂」は、材料と加工の技術における鉄橋の例として、室蘭市の「白鳥大橋」など、写真で1箇所、地図で1箇所、文字で11箇所、計13箇所です。

各者、北海道の素材を資料として取り上げており、そのことにより、生徒の学習意欲を高める効果が期待できます。

次に、「調査研究の観点B」、札幌市として設定する調査研究項目について説

明いたします。

それでは、答申の技2ページを御覧ください。

技術分野においては、計3項目について調査研究を実施しましたが、3項目すべてで各者の特長がみられました。

続いて、答申の技3ページ上段を御覧ください。

最初に1の（1）「課題探究的な学習の取扱い」についてです。

この観点では「自ら生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、実践を評価・改善するなどの学習活動を通して、主体的に課題を解決する力を育むことが可能な内容となっているか」について調査しました。

「東京書籍」72ページ問題解決例「あつたらいいなを形にしよう」についてです。

「東京書籍」の問題解決例では、「問題の発見、課題の設定」から「新たな問題の発見」までの問題解決の流れを中心とした学習展開例が掲載されており、主体的に課題を解決することが可能な内容となっています。

次に「教育図書」54ページの題材例1「調味料ホルダー」についてです。

「教育図書」の題材例では、作業に必要な材料や道具などのほかに、完成までの作業工程や、安全面も含めた注意事項が詳しく掲載されており、掲載内容を確認しながら、各自で作業を進めることができます。

続いて、「開隆堂」62ページの実習例1「小さなスペースで机の上を整理整頓できるマルチラック」についてです。

「開隆堂」の実習例では、これまでに学習した「問題の発見と課題の設定」から「評価・改善」までの問題解決の流れを中心に掲載することで、自ら問題発見と課題設定を行い、問題解決の見通しをもって主体的に課題を解決することができる内容となっております。

次に、2の（1）「技術と環境との関わりについての取扱い」についてです。答申の技4ページ上段を御覧ください。

この項目では、「技術が生活や環境に及ぼす影響について理解し、安心、安全で豊かな生活の実現や、環境保全と利便性が両立した持続可能な社会の構築に向けて、技術を工夫して創造しようとする実践的な態度を養うことが可能な内容となっているか」について調査しました。

3者で共通していることは、環境に関する内容に表示する「環境マーク」が設定されており、学習内容と環境との関連付けがされているところです。

「開隆堂」49ページ「材料と加工の技術とSDGsとの関連について考え方」についてです。

ここでは材料と加工の技術に関する製品を自分で選び、SDGs の目標と照らし合わせて、その製品と SDGs との関連を考える学習活動を行います。

続いて、「開隆堂」75 ページ「今回の取組が SDGs の実現に向けてどのようにかかわっていたかふり返ろう」についてです。

ここでは、自分で製作したものを振り返る活動の一部として、自分の取組が SDGs の実現に向けてどうのように関わっていたかを考える学習活動を行います。

このように「開隆堂」では、環境と関連する資料などを掲載するだけでなく、4つある学習内容ごとに SDGs について考える学習活動が、記載例とともに2つずつ位置付けられており、3年間の学習の中で繰り返し、SDGs との関連付けを行うことで、持続可能な社会の構築に向けた実践的な態度を養うことが可能な構成となっております。

次に、3の（1）「情報の技術に関する取扱い」についてです。答申の技5 ページ上段を御覧ください。

この項目では、「双方向性のあるコンテンツ及び計測したデータを活用して制御するプログラミングや、さらに情報モラル等の学習活動を通して、情報活用能力を育むことが可能な内容になっているか」について調査しました。

「東京書籍」213 ページ「話し合ってみよう」についてです。

ここでは、情報検索などの仕組みについて理解を深めるとともに、情報検索や発信などの情報の技術を利用するまでの「便利な点」や「注意すべき点」を話し合う学習活動を通して、次の 214 ページ以降に示されている便利な点や注意すべき点を考えることで情報モラルを育むことが可能な構成となっております。

また、215 ページの情報発信の注意すべき点では、写真や動画データを SNS へ投稿した際に自分の住所などの個人情報が特定されてしまう可能性があることが例示されておりますが、その他の例示も含め、情報の技術を利用する側、つまり自分への影響を主に想定した例示となっていることが、「東京書籍」の特長となっております。

次に「開隆堂」234 ページ「学習課題」についてです。

ここでは「SNS を利用する際、つまり自分が情報発信するときの注意点について話し合う」学習活動を通して、次の 235 ページに示されている個人情報の保護などに関連した注意する視点を考えることで情報モラルを育むことが可能な内容となっております。

また、235 ページの注意する視点では、「友だちの作品を SNS に勝手に投稿した事例」など、昨今、社会的な問題となっている不適切な SNS の利用について

も示されており、自分への影響だけでなく、自分の良かれと思った行動が他の人への迷惑行為や違法行為につながるという視点も掲載されていることが、「開隆堂」の特徴となっております。

続いて、236 ページからの「3 知的財産の保護と活用」では、239 ページまでの 4 ページにわたって、「知的財産権の種類」や「著作物の利用」などについて掲載されており、236 ページの「やってみよう」の知的財産について調べる学習にて、知的財産の理解を深めるだけでなく、237 ページの「やってみよう」の著作物の適切な利用を検討する学習活動を通して、次の 238 ページ以降に掲載されている、著作物などの望ましい利用に関わる考え方を育むことが可能な構成となっています。

以上、調査項目 4 点において、特に特長が強くみられた教科書の該当部分について説明いたしました。技術分野の説明を終わります。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

○山根教育長 それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたらお願いします。

○中野委員 「教図」のスキルアシストという別冊資料は、授業中にどのような扱いをされるのでしょうか。

○技術・家庭小委員会委員長 製作等の実習時に子どもたちをアシストするものとして活用する形になります。例えば 2、3 ページ、実際に木材にけがきをする時に、このように写真などの資料で実習を後押ししてくれるような掲載になっています。

○中野委員 具体的な手順について別冊がある分詳しいということでしょうか。

○技術・家庭小委員会委員長 はい、その通りです。

○阿部委員 どの教科書にも製作品の工程が詳しく載っていると思うのですが、全ての製作を授業でやるわけではないと思います。その場合、学校によると思いますが、基本的に「これを作る」というのが決まっているのか、もしくは各学校に委ねているのかをお聞かせください。

また、全てを作るわけでなければ、工程を詳しく載せる必要がないという印

象がありますので、教科書を採択する際の注意点、物を作るときにどこにポイントを置くべきなのかというところに焦点を絞ったほうがいいのか、などその辺を教えていただければと思います。

○技術・家庭小委員会委員長 技術・家庭科は、自分で問題を見つけて課題を設定して解決していく教科なので、教科書に事例は載っておりますが、例えば家族のために作品を作って問題を解決するとなったときに、その作品が本棚なのか調味料ラックなのか、その家庭や本によって違ってくると思うので、あくまで事例という形で載っているということ。詳細に作業工程が載っていることが、その子にマッチしているかというとそうではないということもあると思いますので、あくまでも調査研究観点B（1）の課題探究的な学習についてはどうのような特徴があるのかを調べてきた結果であって、おっしゃる通りマッチしていないところも当然あると思います。

○山根教育長 他、よろしいでしょうか。

○山根教育長 それでは、「技術分野」は、対象となる教科書が「東書」「教図」「開隆堂」の3者ですので、3者とも選定の候補とし、8月5日（月）に引き続き審議を行い、それぞれ1者を決定するということでよろしいでしょうか。  
(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 では、そのようにいたします。それでは、技術・家庭小委員会の委員長、家庭分野の調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○技術・家庭小委員会委員長 続きまして、家庭分野についてご説明させていただきます。家庭分野についても「東京書籍」「教育図書」「開隆堂出版」の3者が調査研究の対象となっております。

まず、調査研究の観点Aの採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。

採択参考資料の〔家庭1〕ページをご覧ください。

家庭分野では、【学年・分野・領域等の目標など】にあるとおり、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力の育成を目指す」に当たり、特に質の高い深い学びを実現することが重視されてい

ます。

次に、[家庭7]ページをご覧ください。

ここでは、様式4の調査項目③「【北海道とかかわりのある内容】の具体的な内容」について掲載されております。三者が取り上げているページ数については、大きな差異はありませんでした。3者に共通しているのは、地域の食材や、地域食材として鮭を使った郷土料理を扱っていること、また、北海道の冬に対応した住まいの例、社会施設や社会の取組の例として札幌市に関連する施設や取組が掲載されているということです。

「北海道とかかわりのある内容」の具体的な内容としては、「東京書籍」が、「乳幼児のための社会施設の例」として「札幌市子育て支援総合センター(256ページ)」等を7ページ掲載しております。「教育図書」は、「札幌市こども食堂」等を、6ページ掲載しております。「開隆堂出版」は、伝統野菜として「札幌黄」、「札幌市ヤングケアラー交流サロン」、「フードバンク」等を、5ページ掲載しており、札幌市の特色ある内容が具体的に紹介されている点が特長となっております。また、鮭を例に、食材を無駄にしない工夫された料理として「一尾の魚からつくられる郷土料理」も掲載しております。

続いて、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。

答申 [家1] ページをご覧ください。

家庭分野においては、調査研究項目として、計3項目について調査研究を実施いたしました。そのうち、1の(1)の「課題探究的な学習の取扱い」と、2の(1)「家庭や地域社会との協力・協働に関する取扱い」について、各者の特長が見られましたので説明させていただきます。

まず、1の(1)の「課題探究的な学習の取扱い」について説明いたします。ここでは「各内容において、子どもが生活の中から自分ごとの課題を見いだすための手掛けりや、その解決のための様々な方法が生徒にとって取り組みやすく、家庭や地域での実践に生かせる深い学びにつながる内容・構成となるか」を観点として調査しました。

答申 [家2] ページをご覧ください。

3者に共通しているのは、ガイダンスや冒頭の部分において、課題を解決する学習のプロセスを示している点です。

この項目では、「東京書籍」と「開隆堂」に特長が見られました。各者の特長について、説明してまいります。

まず、「東京書籍」16、17ページをスクリーンでご覧ください。ガイダンス

の「自分の生活チェック」では、グラフを使って「できる・できない」について確認し、自分の家族・家庭や地域における生活を見つめたり、問題を発見したりすることができるよう工夫されています。

続いて 30、31 ページをご覧ください。各内容において、「目標」「学習課題」、ページ右下の「生活に生かそう」あるいは「まとめよう」の学習プロセスが設定されているため、どの内容においても子どもが見通しをもって学習を進めることのできる構成となっています。

次に「開隆堂出版」の 88 ページをご覧ください。各内容の冒頭にある「自分の興味・関心を大切に」では、見開きの写真とともに、子ども一人ひとりの興味・関心を引き出し、新たに始まる学習への意欲や期待感を高めることが可能な内容となっています。よりよい生活やよりよい自分を目指して、もっとこうしたいという思いをもち、未来志向な考え方で主体的に学習を進めることができ内容となっているのが特長です。

続いて 90、91 ページをご覧ください。各内容では、左上の黄色の欄において、自分の経験を振り返ることから始まる内容となっています。そのため子どもが日常生活と結びつけて考えることができるので、自分事の課題を設定することが可能な構成となっているのが特長となっております。

以上が、1 の (1) 「課題探究的な学習の取扱い」の説明となります。

続いて、答申〔家3〕ページをご覧ください。2 の (1) 「家庭や地域社会との協力・協働に関する取扱い」について説明いたします。ここでは「家族や地域の人々とよりよく関わる力を育成するために、家庭や地域社会について理解を深め、幅広い世代の地域の人々と協力・協働しようとする態度を養うことが可能な内容となっているか」を観点として調査しました。

この項目では、「教育図書」と「開隆堂」に特長が見られました。

まず、「教育図書」の 22 ページをご覧ください。「資料」のように、家族、地域の人々や高齢者、幼児と関わるときのマナーやコツ、ポイント等が多く掲載されており、具体的なコミュニケーションの方法を学ぶことができる内容となっています。

最後に「開隆堂出版」です。開隆堂出版では、ジェンダー、ヤングケアラー、障がい者、LGBTQ について掲載されており、多様な他者を理解する可能な内容となっています。

また、33 ページをご覧ください。こちらには、子どもの相談窓口、家族関係を考える NPO、札幌市でのヤングケアラーのサポート体制など、中学生の子どもも家族や地域社会の一員として支援を受ける方法を知り、地域社会とのつな

がりを実感することが可能な内容となっていることが特長です。以上、家庭分野について、説明させていただきました。

○山根教育長 ありがとうございます。それでは各委員から、今の説明にご質問がございましたらお願ひいたします。

○山根教育長 今もご説明にあった、地域社会へのつながりを深めるという観点では、子どもを育てるこことや子育て家庭を支える仕組みを知ることが、将来に向けて大切だと思いますが、その観点で特長的な記述のある教科書があれば教えていただけますか。

○技術・家庭小委員会委員長 どの発行者においても、子どもを育て支える仕組みについて取り扱いがあります。例えば保育所、保育センター、児童館の掲載などがあります。各者の細かいご説明したほうがよろしいでしょうか。

○山根教育長 何か特徴的な部分があればお願いします。

○技術・家庭小委員会委員長 「教育図書」は、子育て支援センターやファミリーサポートセンターが256ページに掲載されています。「開隆堂」はこども食堂、地域食堂、地域子育て支援、医療、雇用保険、生活保護の制度等について掲載されています。加えて、子ども自身が助けを求めることができる児童相談所、24時間こどもSOSダイヤル、こども人権110番、チャイルドラインなど具体的な連絡先が掲載されているのが特長です。

○山根教育長 ありがとうございます。他、ございますでしょうか。

○中野委員 どの図書にも「幼児とふれあおう」ということが書かれているのですが、実際札幌市で中学生が幼児とふれあうことが企画され、実行されているのでしょうか。

○技術・家庭小委員会委員長 コロナの関係で昨年から移行された部分があるので、元に戻ってきたかどうかは各学校各地域による部分はありますが、ふれあいの活動がコロナ前は多くの学校で行われていたと認識しています。

○中野委員 子どもの発達のことやふれあいの具体的な手順は「教育図書」が詳しく書いてあるというイメージですが、全部やっていないとすると、詳しく書いてなくても現時点では困らないということなのか、それとも今後再開したら詳しいほうがいいのか、どちらなのでしょうか。

○技術・家庭小委員会委員長 技術分野のときの説明と一緒に部分がありますが、自分たちでどう課題を見つけて、どう解決していくかということがありますので、あくまで例示や細かいところは参考になる部分もあると思いますし、そうでない部分もあるのが現状だと思います。

○中野委員 詳しさの優劣は教科書選定の理由にはならないということでしょうか。

○技術・家庭小委員会委員長 その通りです。

○山根教育長 それでは、「家庭」は、対象となる教科書が「東書」「教図」「開隆堂」の3者ですので、3者とも選定の候補とし、8月5日（月）に引き続き審議を行い、1者を決定するということでよろしいでしょうか。

○山根教育長 技術・家庭小委員会の委員長、ありがとうございました。

○山根教育長 続きまして、「社会」について、審議を行います。

その前に、私から小委員会委員に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

（「なし」と発言する者あり）

○山根教育長 それでは、社会小委員会の委員長、まず地理的分野の調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○社会小委員会委員長 社会小委員会委員長の遠山でございます。今回、調査研究の対象となりましたのは、「東書」「教出」「帝国」「日文」の4者、合計4点です。社会小委員会において、教育委員会が定めました令和7年度から使用する中学校教科用図書の調査研究の基本方針に基づき、公正・中立の立場から

具体的な調査研究を進めてまいりましたので報告いたします。

はじめに、「調査研究の観点 A」、北海道教育委員会が作成しました採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。インデックス〔採択参考資料社会〕の地理 1 をご覧ください。

地理的分野では、4種の教科用図書について調査研究いたしました。地理的分野については、学習指導要領において、特に「地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や資料から地理に関する情報を効果的に調べまとめる技能」や、「多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論する力」、「我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さ」を育成することが重視されております。

では、道教委が作成した採択参考資料より、各教科書の特長が顕著であった項目 1つについて取り上げて説明いたします。

一つ目は、「アイヌの人たちの歴史・文化等を取り上げているページ数」について説明いたします。

〔採択参考資料社会〕の地理 7 ページから地理 11 ページに資料が掲載されておりますが、ここでは、特徴のあった「教出」の取扱いについてスクリーンに映して、御説明します。

「教出」276・277 ページをご覧下さい。北海道地方の学習では、どの社もアイヌ民族について触れておりますが、教出においては、コラムにて見開き 2 ページで SDGs との関連を図りながら記載をしています。教出は、北海道地方の学習以外においてもアイヌ民族の歴史・文化について、取扱いが多いことが特長となっております。

次に、「調査研究の観点 B」から特長が顕著であった 2 つの項目について説明いたします。

最初に 1 の（1）「課題探究的な学習の取扱い」についてです。

この観点では、「社会的事象について、子どもが自ら疑問や課題をもち、他者との協働を通して、多面的・多角的に考察しながら地域的特色について捉え、自らの言葉で表現することが可能な内容となっているかについて調査しました。

特に、章や節などの学習のまとめについて子どもが自ら学習課題を捉え、見通しをもつことが可能な内容となっているかという点について、3 者に特長が見られましたので、御説明します。

「東書」34・35 ページをご覧下さい。章ごとに掲載されている「導入の活動」

について御説明します。第2編第1章「人々の生活と環境」の学習を例にお話しします。ここでは、「みんなでチャレンジ」で示された学習活動において、34ページにある写真資料の読み取り、そして、読み取ったことを他者と意見交換することを促し、他者との協働を通して、自分が注目していなかった部分や気付かなかつた部分に着目できるようになっており、子どもが自ら章の課題を見いだすことが可能な内容となっています。

「東書」は、「みんなでチャレンジ」がまとめの学習でも位置付いており、協働を通して、学びを進めることができます。

次に、「帝国」92・93ページをご覧下さい。北アメリカ州の学習を例にお話しします。「帝国」は、各地域の学習の導入において、大判の写真資料が掲載されているとともに、「地図帳活用」のマークにて、地図帳の活用を促し、複数の資料を関連付けながら、学習の主題や視点、この北アメリカの学習では「巨大な産業」が主題であることを捉え、子どもが地域の特色を学ぶ学習への見通しをもつことが可能な内容となっています。大判の写真資料を生かし、地図資料と関連付けながら、学習を進めることができ内容となっていることが特長です。

また、ここからは、スクリーンに映して御説明いたします。「帝国」は、1単位時間で活用する見開きのページにおいても、先程の導入で捉えた学習のまとまりの問い合わせ記載され、子どもが課題の解決に向けて、節の課題や問い合わせ意識して学習を進めることができます。全ての学習で、それぞれの学習のまとまりの問い合わせが示され、子どもが学習のまとまりである節の問い合わせの解決を意識して学習を進めることができます。内容となっています。これが特長です。

次に、「日文」90・91ページからの内容について、スクリーンに映して説明します。こちらも、北アメリカ州の学習を例に御説明します。

このページにおいては、写真資料が掲載されており、まず、子どもは地域の概観を捉えていきます。次の92・93ページでは、北アメリカ州の自然環境や人々の生活について学ぶページがあり、前のページで見た写真資料と関連付けながら、地域の特色の理解を深めていきます。

さらに、ページを開くと、コラムを1ページはさみ、95ページでは、ここまででの学習をもとに、気付いたことを話し合い、節の問い合わせを見だし、その節の問い合わせを解決するために、子どもが調べていきたいことを「なぜ」を用いて整理する活動が設定されています。

こうした学習活動を通して、子どもが課題を捉え、学習の見通しをもつことが可能な内容となっております。

全6ページを使用した導入となりますので、小委員会では、単元の配当時数等の全体のバランスを意識した活用について話題となりました。

この1の(1)の観点については、学習指導要領解説社会編においても、単元などの学習内容のまとめを見通して、自ら課題を設定し、主体的に解決に向けて学習を進めることが資質・能力の育成につながっていくと示されており、子どもが課題を見いだす活動は、社会科の学習において重視されています。

次に3の（1）「『札幌らしさ』を学ぶ学習の推進」についてです。

この観点では、札幌らしい特色ある学校教育のテーマにある「環境」と「雪」に関する取扱いについて調査研究をしており、特長が顕著に見られましたので、御説明いたします。

「帝国」270・271ページをご覧下さい。札幌市の取組として、さっぽろ雪まつりの記載があるとともに、本文に「越冬キャベツ」や「雪冷房」の記載があるなど、雪を資源とした産業の具体例が掲載されており、雪と共生しようとする心情を育むことが可能な内容となっています。「雪」を中心に取り上げたページを見開きで掲載していることが「帝国」の特長となっております。

また、「帝国」の特長として、答申3の(2)の記載になりますが、スクリーンに映して御説明します。

「帝国」の277ページでは、「未来に向けて」のコラムにて、「野生動物との共存を目指して」というタイトルで、札幌市のクマ対策が掲載されています。

社会科としては、札幌市や北海道の事例が多く掲載されていることに留まらず、子どもが自分事として関心を高められる内容かどうかが重要であると考えています。

以上、調査項目3点において、特に特長が強くみられた教科書の該当部分について説明いたしました。そのほかの特徴につきましては、お手元の資料をご覧ください。どうぞ、宜しくお願ひいたします。

○山根教育長 それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○佐藤委員 小学校で既に学んでいることを導入の段階で復習してから始めると授業がうまく進むと思いますが、各社の特長がありましたら、ご紹介ください。

○社会小委員会委員長 各者、小中のつながりや歴史や公民との関連について、

いくつか特長がみられます。

地理・歴史・公民の3者で動いておりますので、例として公民の教科書を使って、他との関連をお伝えいたします。「東書」の公民教科書の46ページ、左側上には写真がありますが、写真資料の下に歴史の「歴」と記載されております。このように各者、小・中や地理・歴史・公民の関連のマークが設定されるように工夫されております。

地理の「帝国」2ページ左下になりますが、小学校の歴史・公民、他教科との関連とあります。小学校の世界の大陸の概要と関連があると、小学校と中学校の関連が記載されており、他の教科書にもみられる特長です。

○佐藤委員 ありがとうございます。全教科書でつながりは指摘されておりますが、「日文」がやや詳しみのように思います。

学年と単元が記載されていて、その他は章とキーワードという淡白のように見受けました。私の感覚で恐縮ですが、地理・歴史は小中高で扱う内容はそれほど変わらなくて、例えば参勤交代であれば、小学校で概要、中学校でやや詳しく述べ、高校で細かいところまでやっていくように、扱っているテーマはあまり変わりないと私は思います。そうすると、小中校のつながりというのをそれぞれの段階で押さえていくのが大事になってくると思っているところです。中学校は小学校と高校の中間の部分を繋ぐ重要な役目があると思いますが、小学校や高校とのつながりを重視した授業はどのくらい行われているのか、どのくらい重視しているのでしょうか。

○社会小委員会委員長 小学校は人物を中心に授業を展開される部分があります。中学校は時代背景や諸外国との関係など深い関連性で学びを進めていきます。そのベースは小学校の学びにほかなりませんので、導入の段階で小学校の復習を行ってから単元に入るということになります。

○佐藤委員 ありがとうございます。

○石井委員 一点確認ですが、先ほどのご説明の中に、「帝国」に関しては、地図を関連付けながら学習を進めているとありました。地図帳活用が細やかに出てくるのは「帝国」のみと考えてよろしいでしょうか。

○社会小委員会委員長 「帝国」には地図帳活用のマークが表示されておりま

す。「帝国」の教科書であって、「帝国」の地図帳と必ずしも一致しているということではありませんが、この地図帳活用の項目を基に地図帳に目を移したときに、「帝国」の地図帳にはそれに見合う写真やイラストがありました。

○阿部委員 「帝国」には、アクティブ地理というコーナーがありましたが、課題解決に向けた取組をグループ活動で考えているかと思います。他の教科書会社にも同様のものが設けられているのでしょうか。

○社会小委員会委員長 社会科は単なる暗記科目ではありませんので、課題を自ら見つけて、協働的な学びによって、課題を探究していくことがベースになります。「帝国」にはアクティブ地理があって、共同的な学びを誘発することになりますが、「東書」はみんなでチャレンジという部分が協働的な学びにあたります。

○阿部委員 他の教科書会社はないということでしょうか。

○社会小委員会委員長 コラムの部分に置かれているものは「東書」「帝国」が多いですが、「答申」1の(1)に課題探究的な学習の取扱いの中に、各者の特徴を示させていただいております。

繰り返しになりますが、「東書」にはみんなでチャレンジという活動がありますので、課題探究を進めていく特長かと思います。「教出」につきましても、学習テーマが指示されながら、学習のまとめと表現というところに、最後のまとめにつながるように、課題探究の学びのルートがあります。「帝国」は先ほど申し上げたとおりです。「日文」は節の問い合わせを立ち上げるまでの前半戦がロジカルで、丁寧に行われておりますので、課題探究的な学びが深まる教科書という印象です。

○山根教育長 他、よろしいでしょうか。

○山根教育長 それでは、私から、小委員会委員長にお聞きします。  
調査研究の観点 A「北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究」及び調査研究の観点 B「札幌市として設定する調査研究項目」において、特徴が顕著であったのはどの教科書ですか。その理由と併せて、お聞かせください。

○社会小委員会委員長 特長が顕著な教科用図書は、「東書」「帝国」の2者でございます。理由といたしましては、2者とも、章や単元の導入における工夫により、子どもが資料を読み取ったり、資料同士を関連付けたりしながら、子どもが自ら疑問や課題をもつことが可能な内容となっており、札幌市で大切にしている課題探究的な学習の充実が可能な内容となっていると考えました。

また、「東書」は、まとめの活動においても「みんなのチャレンジ」のコーナーで、協働的な学習を促す内容となっております。

「帝国」は、札幌における社会的事象が多数掲載されており、札幌らしい特色ある学校教育のテーマである「雪」に資する学習を推進したり、地域への興味関心を高めたりするなど、ふるさと札幌の特色を生かし、地域に根差した教育活動を推進することが可能な内容となっております。

以上の点から2者をあげさせていただきます。

○山根教育長 ありがとうございます。特長が顕著であった教科書は、「東書」「帝国」とのことございました。2者とも課題探究的な学習を進めるうえでの工夫がなされているということでございます。このことも含めまして、皆様から質問や意見があればお願ひします。

○中野委員 現在地理の教科書は「帝国」を使っていますが、もう一度新しいものを読み直しまして「帝国」が非常にいいなと思いました。今説明されたこともそうですし、地理的特徴を示す写真が非常に特徴を掴んでいるものを選んでいらっしゃると思います。例えば、首都圏の人口が多いということを、日本最大のショッピングセンターの写真を使って表していることや、シラス台地の壊れやすいところの特徴を捉えていることから、「帝国」が良いと思いました。

また、「教出」も良いと思いました。アイヌ民族についても説明もよくて、「帝国」「東書」「教出」の3冊が良いかと思いました。

○山根教育長 そのほか、いかがでしょうか。

○道尻委員 私も今名前が出ている3つの教科書を候補として残すということで異論はありません。その中でも、札幌市が目標とする学習の点、それぞれ見合った内容になっているという前提で考えたときに、どこが秀でているかを考えたら、北海道に関する記述、地理という科目なので、単なる紹介ではなくて

自分事として考えるような深い記述がなされているという意味で、やはり「帝国」がリードしているのではないかと思っております。

○山根教育長 ありがとうございます。

○石井委員 私も「東書」「帝国」「教出」を残すことに異論はありません。まず、課題探究というところで、「東書」「帝国」の導入部分の活動が良いかなと思いました。あとは、地理ということで北海道の地域的特色の取扱いという部分で、「教出」はページ数も多いですし、もう少し読み比べしたいなと思いました。

○阿部委員 私は委員長から推薦がありました「東書」と「帝国」と思っておりまます。課題探究的な学習の取扱いということで、「東書」のほうには、「みんなでチャレンジ」コーナーで課題探究するというアプローチになっています。すごく優れているなと思うのが、ここは個人活動でここはグループ活動というのが分かりやすく表現されているので、まず個人で活動した後に多様な意見に触れるということでグループ活動というストーリー性があると印象を受けました。「帝国」に関しては先ほど質問させていただいたのですが、「アクティブ地理」というものを使いながら課題探究をしていくという流れや、大判の写真資料で、特に「写真で眺める」というコーナーがダイナミックな写真の取扱いをしていて、課題探究に繋がっていくなという印象があります。それ以外に「帝国」に注目しているのが、巻頭の9ページ、考えを整理する方法ということで、思考のツールを活用しましょうというのが最初に提示されております。これは社会になったときにすごく必要な部分であるということと、他の教科書はところどころでこういう考え方でやりましょうというアプローチがあるので、「帝国」については、どの社会にも最初に考えの整理の仕方と思考ツールの活用ということが表現されているという点は、課題探究に繋がりやすいのではないかということで、非常にいいと思いました。以上です。

○佐藤委員 私は、章のはじめにという問いを立てるところと、まとめ・振り返りという章の最後に出されている課題解決といったことの対応付けということで見たつもりです。「東書」「帝国」は皆さんと変わらないのですが、もう一つは「日文」と考えておりました。先ほど申し上げた小学校との繋がりが手厚く書かれているところと、先ほど委員長からご指摘ありましたが、節の問を立

てようというのが「日文」の大きな特色で、この問い合わせがグラフや様々なデータから導かせているという点が、他者と比較して見られない点と思っておりました。

ただ、他の委員の皆さんのご意見を聞くと、「東書」「教出」「帝国」の意見が多いようですし、「日文」は私のみのため、「東書」「帝国」については皆さんと同じように評価しておりますので、ここでは「日文」については特色があるという発言をするまでにとどめまして、私としては「東書」「帝国」であると申し上げたいと思います。

○山根教育長 佐藤委員ありがとうございます。それでは皆さんのご意見が出揃いました。複数の方が推された者が「東書」「帝国」「教出」ということでございます。この3者を選定候補として挙げるということになろうかと思いますが、いかがでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは、「社会」につきましては、「東書」「帝国」「教出」の3者を選定の候補とし、8月5日（月）に引き続き審議を行い、1者を決定するということでよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長

ではそのようにいたします。次に、歴史的分野の調査研究報告の説明をお願いいたします。

○社会小委員会委員長 それでは、【歴史的分野】についてご説明いたします。今回、調査対象となったのは、「東書」「教出」「帝国」「山川」「日文」「自由社」「育鵬社」「学び舎」「令書」の9者合計9点の教科書であります。

はじめに、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会が作成しました「採択参考資料」を基礎資料とした調査研究内容を報告いたします。

インデックス〔採択参考資料 社会〕の「歴史1ページ」をご覧ください。歴史的分野の目標につきましては、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することとされております。

歴史2ページから歴史38ページまで調査研究結果を示しております。その

中でも、歴史12ページを御覧ください。歴史12ページの様式4の③「アイヌの人たちの歴史・文化等を取り上げているページ数」に特長がみられました。全者、10か所前後または20か所前後にかけて、アイヌ民族の歴史や文化について掲載しております。「東書」「教出」「帝国」「山川」「日文」「自由社」では、アイヌ民族に関する特設ページを設定しており、アイヌ民族の生活や文化について理解することが可能な内容となっております。

続きまして、調査研究の観点Bである「札幌市として設定する調査研究項目」について報告いたします。インデックス「社会」の「歴1」ページをご覧ください。歴史的分野は、合計6項目について調査研究いたしました。

そのうち、1の（1）「課題探究的な学習の取扱い」と3の（2）「北海道の歴史の取扱い」について特長が見られました。

答申の歴2～3ページと併せてスクリーンを御覧ください。

はじめに、1の（1）「課題探究的な学習の取扱い」についてです。この項目では、社会的事象について、自ら疑問や課題をもち、各時代の特色を分析・考察し、自分の言葉で表現することが可能な内容となっているか、について調査研究いたしました。

1 「東書」の98、99ページを御覧ください。「導入の活動」では、「みんなでチャレンジ」の対話的な活動を通して「探究課題」を設定しています。また、140、141ページを御覧ください。章末の「まとめの活動」では、思考ツールを用いて節の学習を振り返るとともに、次の142ページでは「探究課題」について自分の言葉で表現することが可能な内容となっております。

次に、3「帝国」の114、115ページを御覧ください。日本の歴史を扱う章の冒頭には「タイムトラベル」が配置され、前の時代との変化に着目することで、子どもが自ら疑問や課題をもつことが可能な内容となっています。また、118ページを御覧ください。ページのタイトルの下に、節の問い合わせが学習課題と結びつくように明示されており、常に節の問い合わせを意識しながら、見通しをもって学習に取り組むことが可能な内容となっております。さらに、158、159ページを御覧ください。章末の「学習を振り返ろう」では、「タイムトラベル」を基に学習を振り返ったり、他者との対話を通して考えを深めたりした上で、次の160ページでは、時代の特色を考察し、自分の言葉で表現することが可能な内容となっております。導入で活用した「タイムトラベル」が、まとめの学習においても活用できるよう配置されているのが特長となっております。

続いて、5「日文」の106、107ページを御覧ください。「学習のはじめに」では、前の104、105ページも含めて、資料の読み取りを基にした対話的な活動

によって問い合わせを立てたり、見通しをもったりすることが可能な内容となっております。また、152、153 ページを御覧ください。「まとめとふり返り」において、他者との「学び合い」の活動を通して、時代の特色を自分の言葉で表現することが可能な内容となっております。

次に、答申「歴8」ページと併せてスクリーンを御覧ください。

3の（2）「北海道の歴史の取扱い」については、北海道の歴史の特殊性について理解し、興味・関心を高めることが可能な内容となっているか、について調査研究いたしました。

2 「教出」の 174 ページを御覧ください。脚注で、北海道命名の由来に関する松浦武四郎とアイヌ民族とのエピソードや、北海道各地の地名の選定について紹介されております。また、178、179 ページを御覧ください。特設ページ「北海道の歴史を調べよう」が設けられており、地域史の学習を深めることで、北海道の歴史について興味・関心を高めることが可能な内容となっております。

続いて、3 「帝国」の 31 ページを御覧ください。古代における北海道の歴史について、本州・九州・四国と比較できる略年表が掲載されており、「縄繩文化」「オホーツク文化」・「擦文化」「アイヌ文化」と続く北海道の歴史の特殊性について理解することが可能な内容となっております。また、巻末の歴史年表を御覧ください。こちらの年表においても、「北海道の時代区分」として、「縄繩文化の時代」から「松前藩の支配」の時代までが掲載されており、北海道の歴史の特殊性について他の地域と比較できるように工夫されております。

さらに、199 ページを御覧ください。特集「移住と開拓が進む北海道」では、北海道開拓の歴史のみならず、「札幌の近代化」として3枚の写真資料が掲載されており、明治期以降の発展の歴史を学ぶことで札幌市の歴史に対する興味・関心を高めることができます。

続いて、4 「山川」の 205 ページを御覧ください。特設ページ「地域からのアプローチ」では、「1 開拓の歴史から考える札幌」において、明治期以降の歴史に関わる調査活動を通して、札幌の歴史に触れることが可能な内容となっております。

続いて、6 「自由社」の 175 ページを御覧ください。特設ページ「日本の近代化とアイヌ」が設けられ、アイヌ民族に対する政府の対応を通して北海道の歴史を学ぶことが可能な内容となっております。

続いて、7 「育鵬社」の 200 ページを御覧ください。「歴史ズームイン」のコーナーで、「外国人が見た日本」をテーマとして、北海道の開拓期におけるクラークの活躍などについて紹介されております。

続いて、8「学び舎」の176ページを御覧ください。明治期の領土画定に関わり、松浦武四郎の「蝦夷地の地図」や「北海道移住手引草」が資料として掲載されているとともに、琴似出身のアイヌ民族が東京で学んだことについて本文で紹介されています。また、282ページを御覧ください。こちらの年表では、北海道の歴史が他の地域の歴史と分けて示されております。

最後に、9「令書」の302ページを御覧ください。明治・大正期の北海道の歴史について、年表が掲載されております。

以上で、【歴史的分野】の答申の概要について説明させていただきました。

○山根教育長 ありがとうございます。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○佐藤委員 帝国ですが、前回採択時にタイムトラベルが載っており、帝国を採択した大きな理由のひとつでしたが、4年間使用して、タイムトラベルに対する子どもたちの反応や先生の使い勝手についてお聞きしたいと思います。

○社会小委員会委員長 答申の1の(1)に課題探究的な取扱いに一部示させていただいておりまして、タイムトラベルは授業で効果的に使用しております。立体的に、ひとの血が通う歴史として子どもたちが認識していくためには、タイムトラベルの活用によって様々に興味関心を高めながら、この資料から気づきを得やすくなるという姿が見られます。

また、まとめにタイムトラベルを用いて、導入とまとめに使うことで、学習を振り返りと他者との対話を通して、節の問い合わせについても自分の考えを深められやすいと感じております。

○中野委員 北海道としては、シャクシャインの乱が有名で、ほとんどの教科書で記載されておりますが、コシャマインについて触れていない教科書もあり、学習指導要領上、両方触れる必要があるとなっているのでしょうか。それとも、どちらか一方となっているのでしょうか。

○社会小委員会委員長 学習指導要領の中には、双方触れなければいけないという記載はありません。双方学ぶことで、アイヌ民族と和人との長い戦いでは必要と個人的には思っておりますが、シャクシャインの戦いを取り上げることで松前藩による経済的な支配が確定していくことで、シャクシャインの

戦いを押さえているのではないかなと思います。

○山根教育長 他、ありますでしょうか。

○山根教育長 それでは、私から、小委員会委員長にお聞きします。調査研究の観点 A 「北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究」及び調査研究の観点 B 「札幌市として設定する調査研究項目」において、特徴が顕著であったのはどの教科書ですか。その理由と併せて、お聞かせください。

○社会小委員会委員長 特長が顕著な教科用図書は、「東書」「帝国」の2者でございます。

理由といたしましては、2者とも、章や単元の導入における工夫により、子どもが自ら疑問や課題をもつことが可能な内容となっているとともに、学習のまとめでは、各時代の特色を捉え、自分の言葉で表現することで学びを深める構成となっており、札幌市で大切にしている課題探究的な学習の充実を図ることが可能な内容となっていると考えました。

また、「東書」は、アイヌ民族の歴史や文化について、詳しく扱っていることも特長となっております。

「帝国」は、北海道の歴史の特殊性について明確に記載されているとともに、北海道や札幌市の発展に寄与した人物について学びながら、開拓によって人々の生活や環境がどのように変容したのかを考えることができる内容となっております。

以上の点から2者をあげさせていただきます。

○山根教育長 ありがとうございます。特長が顕著であった教科書は、「東書」「帝国」とのことでありました。どちらも課題探究的な学習を進めるうえでの工夫がなされていること、アイヌをはじめ、北海道に関する記述についても充実しているということでございました。このことも含めまして、皆さんからご意見・質問がございましたらお願ひいたします。

○佐藤委員 それでは同じ見解ですので最初に申し上げます。私も「東書」「帝国」の2者と考えます。理由は、ただいまありましたとおり「東書」は導入の活動とまとめの活動の対応がしっかりとしている点が評価できると思います。「帝国」は導入の部分に該当するタイムトラベルと、学習を振り返ろうの

ところに図版がもう一度提示されて、きちんと対応づけられております。ここでこの章・節のしっかりととした把握ができる教科書はこの2者だと考えます。

○山根教育長 ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

○道尻委員 私も先ほどの委員長のご説明や市民意見を見ても、やはり同じような考え方を持っております。「帝国」については、札幌の発展を大きく取り上げていて、札幌市の子どもたちにぜひこの教科書で学んでもらうのが良いのではないかと考えております。以上でございます。

○中野委員 私もまず「帝国」を挙げたいと思います。他の委員の意見と重なっていますが、「アクティブ歴史」というところが非常によくできていると思います。母性保護論争の見開きでは、大正時代の職業婦人の憧れの理由として、月給の差であったということがわかりました。給料の差が一覧表になっていて、実際報酬もよかったですということで腑に落ちました。そのように深く説明している「帝国」が良いと思いました。「東書」もまとめなどよくできていると思います。両者もコシャマインが出ているということで、この2つを選びたいと思います。

○石井委員 私も「東書」「帝国」が良いと思っております。どちらも導入の活動やまとめの活動、また、北海道に関する記述についても申し分ないかなと思っています。

「帝国」に関しては、北海道の略年表が掲載されている点や、中野委員からお話があった「アクティブ歴史」について私も非常に良い教材だなと思っております。「アクティブ歴史」と一緒に「技能を磨く」というところもあって、非常に歴史的な背景や資料をもとに、子どもたちが情報を考察して調べるような活動があって、歴史についても学びを深めることができるのでないかと考えています。以上です。

○阿部委員 私も皆さんと同じ「東書」「帝国」と考えております。課題探究的な学習の取扱いというところで、2者に共通している点としましては、思考ツールというのが事前に示されていて、考え方をどう考えていったらしいかという課題探究に繋がるところが長けているなど感じます。

特に「帝国」は地理でも申し上げたのですが、巻頭の部分で思考の整理とい

うツールの表現を先にしてくれているので、子どもたちがこういう風に考えていけばいいということを分かりやすく表現してくださっている印象があります。他の委員からもお話がありましたように、「帝国」では「アクティブ歴史」というのが各所に設けられていて、考察をするということと、それに対して最終的にトライしていこうと締めくくっているところが非常に良いなと感じました。以上です。

○山根教育長 ありがとうございます。皆さんのご議論を踏まえますと、「東書」「帝国」の2者を選定候補としてあげることになろうかと思いますが、いかがでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは、「社会歴史的分野」につきましては、「東書」「帝国」の2者を選定の候補とし、8月5日（月）に引き続き審議を行い、1者を決定するということでよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 ありがとうございます。では、そのようにいたします。次に、公民的分野についてご説明をお願いいたします。

○山根教育長 【公民的分野】について御説明いたします。今回、「東書」「教出」「帝国」「日文」「自由」「育鵬」の6点の教科書が調査対象となっております。

はじめに、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会が作成しました「採択参考資料」を基礎資料とした調査研究内容を報告いたします。

〔採択参考資料 社会〕の公民1ページを御覧ください。公民的分野の目標につきましては、現代社会の見方・考え方を働きかせ、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することとされております。

公民2ページから13ページまで調査研究結果を示しております。そのうち、公民9ページの様式4の③「道内の市町村等を取り上げている箇所数」に特長が見られました。

全者、複数ページに渡り、道内の市町村等が取り上げられておりますが、「教出」は最も多い20箇所で取り上げられており、札幌市の企業に関する資

料も取り上げられております。

「東書」「自由」「育鵬」にも、行政等の取組に係る札幌市の資料が取り上げられておりました。

続きまして、調査研究の観点Bである「札幌市として設定する調査研究項目」について報告いたします。答申「社会」の「公1」ページをご覧ください。公民的分野は、合計7項目について調査研究いたしました。

そのうち、1の（1）「課題探究的な学習の取扱い」と、2の（2）「人間尊重の意識を醸成する学習の取扱い」について特長が見られました。

答申「公2、3」ページをご覧ください。1の（1）「課題探究的な学習の取扱い」については、現代の社会的事象について、自ら疑問や課題をもち、他者と協働しながら考察し、判断したことを、根拠を基に適切に表現する力を育むことが可能な内容となっているか、について調査いたしました。

「東書」130ページをご覧ください。「導入の活動」では、「みんなでチャレンジ」の活動を通して、協働的に学び、探究課題を設定することが可能な内容となっています。章末の「まとめの活動」でも、「みんなでチャレンジ」が位置付き、他者と協働しながら学びを深め、探究課題に対する自分の考えを導くことが可能な内容となっています。

「帝国」116ページをご覧下さい。「学習の前に」では、イラストから読み取ったことについて、「対話」で仲間と意見交換をしながら単元の問い合わせをいくことが可能な内容となっています。章末の「学習を振り返ろう」にも「対話」が位置付けられておりました。

「日文」128ページをご覧下さい。「学習のはじめに」では、マンガから読み取ったことについて、「学び合い」で気づいたことを出し合いながら章や節の問い合わせを立てることが可能な内容となっています。章末の「まとめと振り返り」にも「学び合い」が位置付けられておりました。

次に、答申「公8、9」ページをご覧ください。2の（2）「人間尊重の意識を醸成する学習の取扱い」については、国籍や年齢の違い、障がいの有無、性などの人権に関する課題を把握するととともに、人権を尊重する実践的态度を養うことが可能な内容となっているか、について調査いたしました。

各者、国籍や年齢の違い、障がいの有無、性などの人権に関する課題について把握できるよう記載されておりました。

「東書」は憲法の学習の導入で、効率と公正の視点から人権課題について考える活動が位置付けられるとともに、章の最後にも人権の尊重について、考え方、議論することが位置付けられており、人権を尊重する実践的态度を養うことが

可能な内容となっています。

また、答申「公6、7」ページをご覧ください。人権に関わって2の（1）「アイヌ民族の人権に関する学習の取扱い」については、アイヌ民族の人権に関する課題を把握するとともに、人権を尊重する実践的態度を養うことが可能な内容となっているか、について調査しました。

各者、伝統文化や平等権の学習において、アイヌ民族に関する記述や資料の掲載が見られております。

「東書」は、国際社会における人権の学習においても、先住民族の権利の保障に関わって、アイヌ民族を交えて記述し、特設ページにおいても、国連宣言などを交えてアイヌ民族を取り上げております。以上で、【公民的分野】の説明を終わります。

○山根教育長 それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○中野委員 成人年齢が引き下がったことで、経済活動や契約関係など、早い段階から学んでいかなければいけないと思いますが、各教科書の特色はありますか。

○社会小委員会委員長 各教科書に主権者教育について記載がありました。特に契約にかかわることにつきましては、近年注目されており、各社記述が充実してきていると思います。

「東書」138ページ、「18歳へのステップ」として、契約・支払い等について学ぶ特設ページが用意されています。また、「帝国」の128ページ、「18歳への準備」という特設ページがあります。18歳を謳った特設ページがあるのは、「東書」、「帝国」のみです。

○道尻委員 今は政治離れや政治的無関心が問題になっていますが、若者に政治に参加してもらうことや自分たちのことを住民参加で自ら決めていこう、という取組が様々取り上げられていると思います。各者取り上げ方にかなり濃淡があると個人的に感じましたが、そのあたりが調査研究の中で取り上げられたり、特色のある教科書がピックアップされたりということがあれば、ご紹介いただきたいです。

○社会小委員会委員長 各者に、10代の政治参加に関わるコラム・記事が数点ございました。例えば、「東書」90ページをご覧ください。「18歳へのステップ」という特設ページで、実際に自分がまもなく18歳になるわけですが、一体どのような流れで自ら政治参加ができるのかという選挙の流れを一面で表しているような工夫がなされておりました。

○佐藤委員 思考ツールの紹介が「教出」「帝国」でなされておりますが、色々なチャート図やトゥールミンモデルなど、それらを使って各章で考えさせたり、整理をさせたりしていると思います。公民的分野を学ぶ上で、この必要性あるいは、これを学ばせることの意義について教えていただければと思います。

○社会小委員会委員長 まず、論理的な思考の力を、この多様性の時代、子どもたちに身に付けてもらいたいと、現場の教員は考えると思います。

その際に様々な形の思考ツールが示されるようになってきましたので、特定の思考ツールにこだわりませんが、いくつか自分の中にフィットするような思考ツールをもって、世の中の事象を自分で見て判断していくことについては、大変良い取組だと思っております。思考の流れを可視化するということが、この思考ツールでは可能になると思います。

○阿部委員 経済に関してというところでお伺いしたいのですが、金融資産等について秀でている教科書があれば教えていただきたいと思います。

○社会小委員会委員長 金融に関しては、一般的にどの教科書でも単元として扱いますので、金融や契約など、これから成人になる中でどのような視点でそういうものに関わっていけば良いのかというあたりは各者工夫してコラム等で示されております。「東書」「帝国」の「18歳」という名前のついた特設ページから、授業では膨らませて考えていくことができるのだろうと感じております。

○阿部委員 ありがとうございます。「帝国」の「18歳の準備」というところで、154、155ページに、ライフプランから金融を考えよう、というコーナーがあります。例えば155ページのように、お金に余裕があるときはどうする？お金が足りないときはどうする？という考え方をもつことは、中学生にとってと

ても大事な要素だと思います。社会に出たときに、お金がなくなった、足りないというときに、いわゆる借金をしてしまうという考え方もあるって、それを元にトラブルに巻き込まれる大人も多いと思うので、このページってすごく大事だなと個人的には思っております。これと関連して、他の教科書ではライフプランと金融やお金の運用の仕方について学べるコーナーはあるのでしょうか。

○社会小委員会委員長 答申の調査項目には挙がっておりませんでしたので、今ここで明快な回答はできないのですが、やはり「18歳の準備」のライフプランを考えるという「帝国」の取組は特徴的だったなと思っております。

ただ、大事なことでありますので、現場の教員は様々な資料でそういった投げかけを子どもたちにしているというのが、現場の状況と考えております。

○石井委員 メディアリテラシーについて、各者特色があれば教えてください。

○社会小委員会委員長 情報モラル、情報教育、メディアリテラシーという点については、各者で取り扱っております。例えば「フィルターバブル」「エコチェンバー現象」などという、最近出てきた用語ですが、「教出」「日文」の教科書に示されておりました。

また、「教出」95ページには「公民の窓」ということで、インターネットの発達と情報の偏りやフィルターバブルのイメージ図が載っております。

そして、「日文」64ページでは、情報スキルアップということで、ネット社会と付き合う方法という特設ページが示されております。先ほど申しました「フィルターバブル」や「エコチェンバー現象」というのは、真ん中の枠組みの中で示されており、現代を生きる子どもたちにも、十分に実感をもってこの問題に関われる内容かと、小委員会でも話題になっておりました。

○山根教育長 ありがとうございます。ほか、よろしいでしょうか。

○山根教育長 それでは、私から小委員会委員長にお伺いします。調査研究の観点A北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究、及び、調査研究の観点B札幌市として設定する調査研究項目、この両者におきまして特長が顕著であったのはどの教科書でしょうか。理由と併せてお伺いします。

○社会小委員会委員長 特徴が顕著な教科書は、「東書」「帝国」の2者でござ

います。理由といたしましては、「東書」は導入及びまとめの活動において、みんなでチャレンジのコーナーが位置付けられることにより、協働的な学習を通して課題設定をすることや、課題に対する自分の考えを持つことを促す内容となっております。また、人権を尊重する、実践的な態度を養う活動も位置付いておりました。

「帝国」は同様に導入やまとめにおいて対話が位置づけられ、協働的な学習を通して学びを進めることができます。1単位時間の学習でも、節の間を意識しながら学習を進めることが可能な内容となっておりました。2者ともに、札幌市で大切にしている「課題探究的な学習の充実」を図ることが可能な内容になっていると考えました。

以上の点から「東書」「帝国」2者を挙げさせていただきます。

○山根教育長 はい、ありがとうございます。特長が顕著であった教科書は「東書」「帝国」とのことでありました。このことも含めまして、皆さんからご質問やご意見がございましたらお願ひいたします。

○中野委員 私は「帝国」「東書」と思っておりました。「帝国」については、先ほどもありましたが、契約・金融など経済的分野の内容が特設ページに盛り込まれており、特長的でした。

○山根教育長 はい、ありがとうございます。

○道尻委員 私も委員長からご説明ありましたとおり、この2者が「課題探究的な学び」に適しているという考えに異論ございません。「帝国」については、先ほども質問させていただいた政治参加や身近な問題を話し合って自分事として考える、解決に向けたロールプレイングなど、非常に分かりやすく学べる、あるいは解決を体験するという工夫があって面白い取組ではないかと感じております。そういう意味からも、この2つの教科書を選ぶということでよろしいのではないかと思います。

○石井委員 私も「東書」「帝国」が良いと思っております。どちらも、「課題探究」という意味で、子どもたちが話し合いを通して、協働的に学びを深めることができる工夫がされていると感じました。また、先ほど道尻委員から、「帝国」は自分事として公民を考えることができるというお話をあったのです

が、私も同じ考え方を持っております。特に先ほどから社会科で、「アクティブ〇〇」があると思うのですが、公民においても非常に良い教材だと思いますし、「18歳の準備」という部分も非常に良いなと思っております。以上です。

○阿部委員 私も皆さんと同じで、「東書」「帝国」というふうに思っております。道尻委員と石井委員からお話をあったように、公民的分野では、自分事としてどう捉えられるかというところが大きなポイントになると見たときに、2者とも「18歳への準備」ということで、将来を想像できるような作りになっているというところが非常に共感できます。特に「帝国」については、先ほど佐藤委員から質問があったように、思考のツールを巻頭ページで表現して、公民のページにも全部ではありませんが、「アクティブ公民」という思考の考え方をそれぞれのセクションで思考ツールを使いながら、どう考えていったら自分の考えを整理できるか、というアプローチが非常に長けていると感じました。どちらも良いと思いますが、どちらかと言うと「帝国」の特長がそういうところにあるという印象をもちました。以上です。

○佐藤委員 私も「東書」「帝国」で良いと思います。導入とまとめ、各者本当に工夫されていて、「教出」も事前の学習のはじめにというところの導入が手厚いわけですが、ここを本格的にやってしまうと本編に時間が避けなくなるかなと思い、残念ですが、「東書」「帝国」ということで私も皆さんと同じです。

○山根教育長 ありがとうございます。そうしますと、皆さんの意見を踏まえますと、「東書」「帝国」の2者を選定候補として挙げることになろうかと思いますが、いかがでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは社会公民分野につきましては「東書」「帝国」の2者の教科書を選定の候補とし、8月5日に引き続き審議を行い、1者を決定するということでよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 ありがとうございます。ではそのようにいたします。それでは次に、地図の調査研究報告の説明をお願いいたします。

○社会小委員会委員長 それでは最後に、社会科地図についてお話をいたします。今回調査対象になりましたのは、「東書」「帝国」の2者、計2点でございます。

はじめに、「調査研究の観点A」について説明いたします。

地図では、2種の教科用図書について調査研究いたしました。地図については、地図だけで学習指導要領に目標が示されていることではなく、地理・歴史・公民の中で、学習内容と関連付けて活用していくことで資質・能力を育んでいくことが重要とされています。

それでは、道教委が作成した採択参考資料から、各教科書の特長が顕著であった1つの項目「自然災害及び防災に関する内容について取り上げているページ数」について御説明します。

説明いたします。

「帝国」159・160ページを御覧ください。159ページからは4ページに渡って、「日本の自然災害・防災」というタイトルにて、9種類の資料を掲載しています。このページを含め、自然災害及び防災に関する内容について21ページに渡って、資料を掲載しています。

「調査研究の観点A」については、今お伝えした項目において取り上げているページ数に特長が見られました。

次に、「調査研究の観点B」について説明いたします。

最初に1の(1)「地域社会の社会的事象に関わる教材の取扱い」についてです。

この観点では、身近な地域への興味・関心を高めるとともに、位置や空間的な広がりに着目して社会的事象を捉えることが可能な内容となっているか調査しています。

特に、身近な地域の取扱いについて特長が見られましたので御説明します。

「帝国」153・154ページをご覧下さい。「北海道地方の資料」において、「10札幌市への雪への備え」「11釧路湿原」など11種類の主題図などを掲載しており、札幌らしい特色ある教育にもある「雪」「環境」などの視点からも北海道の特色を捉えることが可能な内容となっています。

二つ目1の(2)「資料の取扱い」についてです。

この観点では、地図と併せて、写真や統計資料、挿絵など、各種の具体的、基礎的資料が活用でき、社会的な見方・考え方を働かせながら、学習活動を進めることができ内容となっているかについて調査研究しております。

特に、地図資料の活用方法、統計資料の取扱いについて特長が見られました

ので御説明します。

「東書」127・128 ページをご覧下さい。「ビーズアイ」というコーナーにて、みつばちのキャラクターによって示された学習活動を通して、地図を活用する技能を高め、社会科の学習を深めることが可能な内容となっております。

次に、「帝国」1 ページをご覧下さい。もくじにおいて、SDGs や他分野との関連が見られるページについてマークで示されており、子どもが自ら他分野との関連を考えたり、学習内容に合わせて資料を活用したりしながら学習を深めすることが可能な内容となっております。具体例として、151・152 ページを御覧ください。152 ページ右下にある「③日本とロシア・ソ連の国境の変遷」の資料では、歴史のマークが示されており、北方領土等の領土の変遷が掲載されており、歴史の学習において地図帳を取り扱い、学習を深めることが可能な内容となっています。

次に、179・180 ページを御覧ください。国別統計と 43 品目の生産に関わるグラフが掲載されているとともに、「持続可能な社会を考える統計」についても掲載されており、様々な視点から世界の諸地域への理解を深めることが可能な内容となっております。

以上、地図の答申の概要について説明いたしました。

どうぞ、宜しくお願ひいたします。

○山根教育長 ありがとうございます。それでは、各委員から今の説明にご質問がございましたらお願ひいたします。

○道尻委員 先ほど地図の関係では、地理の教科書のときに「地図帳活用」という標記が議論の中で出てきましたが、地理の教科書で「地図帳活用」と出てくるところとリンクして地図帳の参照がなされることが多いのかということと、仮に地図帳と地理の教科書が別の会社になった場合、学習活動が阻害されるような懸念があるのかどうかについてという 2 点について教えていただきたいと思います。

○社会小委員会委員長 まず、社会科におきましては、場所がどこなのか、どのような広がりなのかという場所や分布を前提にしなければ学習が進まないため、地図帳の活用はどの分野におきましても必須と考えております。例えば、「帝国」の地図と「帝国」の地理の教科書が一致していなければ授業が成り立たないかというと、そういうことではないと思います。

ただし、利点もございます。例えば「帝国」の 271 ページ、これは北海道の雪のページですが、上に緑色で「地図帳活用」という項目がございます。ここに雪の堆積場のことが書かれているのですが、なかなか札幌市の堆積場についての地図データというのはなかなかありませんが、「帝国」の地図帳 154 ページをご覧ください。先ほど申しました 10 番、札幌市の雪の備えという札幌市の地図の中から、除雪や融雪の取組の図が連動していきます。このページを見たら、この学習内容と繋がっているのだと子どもたちの中で分かるという利点はあると考えております。

○山根教育長 ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

○山根教育長 よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは、地図は「東書」「帝国」の 2 者でありますので、2 者とも選定候補とし、8 月 5 日に引き続き審議を行い、1 者を決定するということによろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 ではそのようにいたします。社会小委員会委員長、どうもありがとうございました。

それでは協議第 1 号の本日の審議を終了いたします。

○山根教育長 次回 8 月 5 日につきましては、中学校部会の全 10 教科 16 種目及び高等学校部会、特別支援教育部会について審議をいたしますので、よろしくお願いいたします。

○山根教育長 その他、各委員から何かございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○山根教育長

以上で、令和 6 年第 15 回教育委員会会議を終了いたします。